



未来の
ブカツ
SPORTS 

成果報告書

中山間地域における部活動地域移行

～「部活動MaaS」による持続可能な地域移行モデルの検証～

株式会社YMFG ZONEプランニング

作成日：2023年2月24日

目次

1. 目指す姿

- a. 目指す姿
- b. 各ステークホルダーの役割

2. 本実証で実証する課題とそのポイント

- a. 実証の背景と課題
- b. 実証ポイント

3. 実証内容とその成果

- a. 実証の概要
- b. 課題ごとの取組結果
- c. 実証から得られた示唆
- d. その他活動に関する報告

4. 今後の目指す姿

- a. 本実証を踏まえた目指す姿
- b. 目指す姿に向けたロードマップ
- c. 事業収支計画

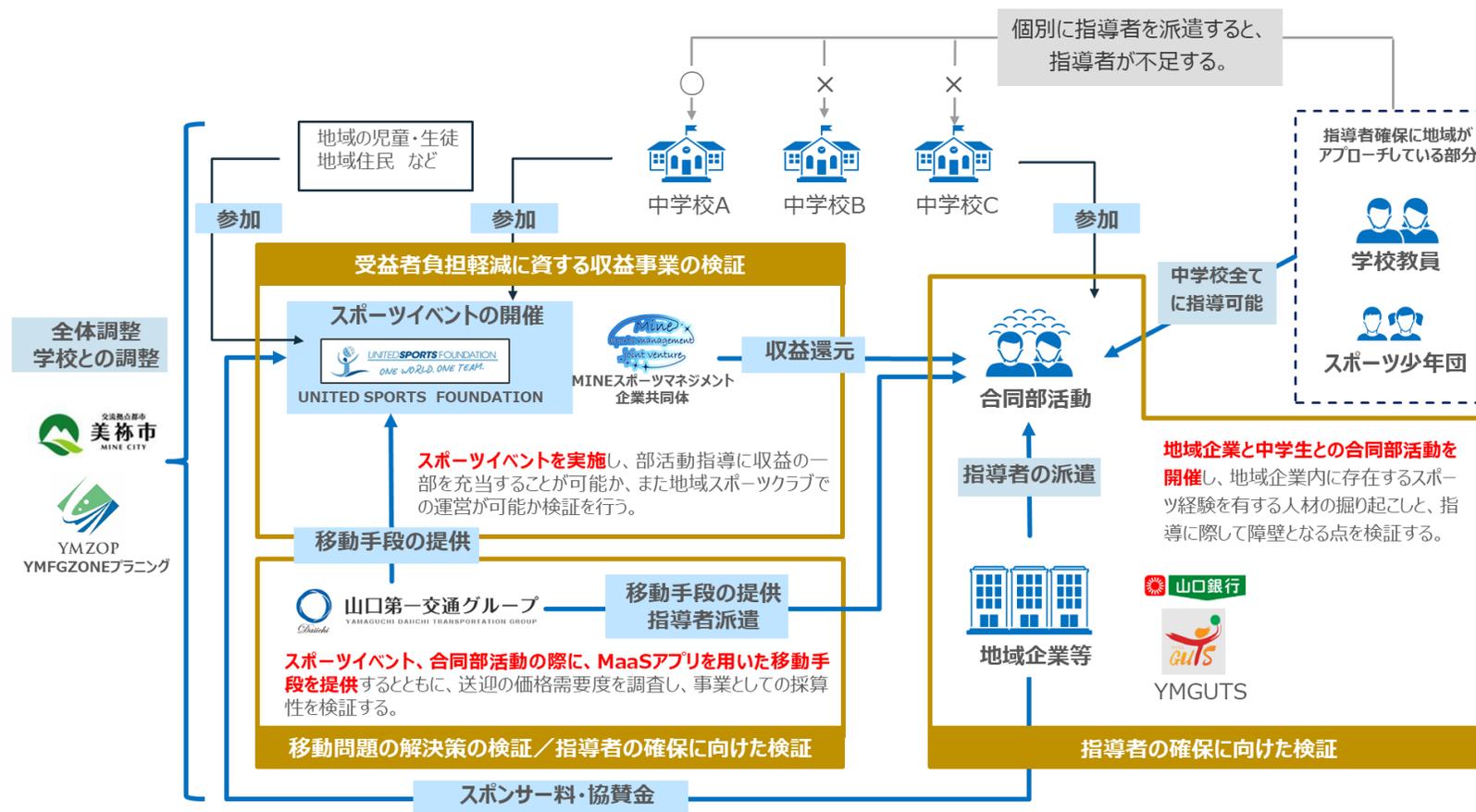
1. 目指す姿

1. 目指す姿

a. 目指す姿

- 本実証は、山口県美祢市（以下、美祢市）における部活動の地域移行実現のため、YMFGZONEプランニングが全体コーディネーターとして、中山間地域における最も大きな課題の一つである移動問題の解決について各ステークホルダーと連携して実施した。
- 併せて、指導者確保に向けたヒアリングや、合同部活動による指導者の在り方の調査および市が所有する体育館を活用したスポーツイベント実施による収益事業の検証を行い、部活動地域移行に必要なデータを収集、美祢市に提供することで部活動の地域移行の持続可能な在り方を検証する。

実証の全体像



1. 目指す姿

b. 各ステークホルダーの役割

実証自治体 (山口県美祢市)

- 2025年度の完全地域移行を目指し各種取組を進める。市内では、教育委員会に設置されている以下の2課が中心となっている。
- 学校教育課・・・学校の調整。教育的観点に関する管理。兼業兼職の推進等。
- 生涯学習スポーツ推進課（以下、生スポ課）・・・受け皿団体への公的な支援（資金面等）の検討。市のスポーツ振興との位置づけ調整。指導者の募集等。

山口第一交通 グループ (山口第一株式会 社、株式会社REA)

- (以下、山口第一) 山口県最大のタクシー会社であり、グループ会社のREAではクラウド型AI乗合配車システムの開発・販売を行う。
- スポーツイベントと合同ブカツにおいて、同社アプリ「Noruuu」を活用した送迎を実施し、サービスの事業性を検証する。

MINEスポーツ マネジメント 共同企業体

- (以下、MINEスポ) 美祢市近隣に拠点をもち複数企業の共同体。美祢温水プールの指定管理業務を受託しており、スポーツに関する事業の展開を検討中。
- 運営を補助し、スポーツイベントの運営ノウハウを得る。

一般財団法人 UNITED SPORTS FOUNDATION

- (以下、USF) スポーツイベントの開催について豊富な実績を有する。
- 企画から運営に至るまでのノウハウを、MINEスポに共有する。

YMGUTS (ワイエムガッツ)

- 山口銀行の女子ハンドボールチームで、地元出身選手を中心に構成されている。
- 合同ブカツにおいて、外部指導者としてトレーニングを実施する。

市内中学校

- 合同ブカツの開催に際し、児童・生徒への概要説明を行う。
- 地域移行後の兼業・兼職を検討している教員は一部指導者としてブカツへ参画する。

地域企業

- 地域移行後のブカツへの参画について、企業と学校の合同ブカツ、従業員等が指導を行う際の対応、協賛等の可能性を検討する。

株式会社YMFG ZONEプランニング

- (以下、YM-ZOP) 金融機関をグループ会社に持つ地方創生に関するコンサルティング企業。
- 受託者として、事業の運営を通じ、中山間地域における部活動の地域移行に関する個別論点解消のための実証を行う。

2. 本実証で実証する課題とそのポイント

2. 本実証で実証する課題とそのポイント

a. 実証の背景と課題 —美祢市の現状—

- 実証フィールドとなる山口県美祢市は、人口2万人程度の中山間地域であり、広大な面積を有する。
- 市内6中学校の設置部活動と加入状況を見ると、学校の規模によっては選択できる種目がかなり限られている。

美祢市の概要



出典：美祢市 移住・定住支援サイト すんでみ〜ね

- 山口県西部に位置する緑豊かな中山間地域にあるまち
- 人口22,572人（R4.3.31時点）
- 面積は約473km²（端から端の中学校までは30kmほど）

部活動の設置・加入状況

中学校・性別 種目	伊佐		厚保		大嶺		於福		美東		秋芳		市内計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
陸上競技					16	5							16	5
剣道					3	4							3	4
バレーボール		0			11	14				2※1		5※1	11	21
ソフトテニス		3			21	15			16	9	6	5	43	32
弓道					5	18							5	18
卓球	3		6	7					0	9	4	5	13	21
水泳競技						12								12
軟式野球		6※2		9※2	10					7※3		7※3		39
吹奏楽					16				12					28
部員計		12		22	150			0	55			32		271
1・2年生徒		21		23	163			0	61			35		303

※1, ※2, ※3... 合同チームで試合に出場。

は市内の他校にはあるが、通っている中学校では経験できない種目。

於福中学校は令和5年3月に閉校予定。

- 市内6中学校合わせて1学年あたりの生徒数は150人程度で推移している。
- 生徒数に応じて設置される部活動の種目数が異なり、中学校によっては選択肢が制限されている。

2. 本実証で実証する課題とそのポイント

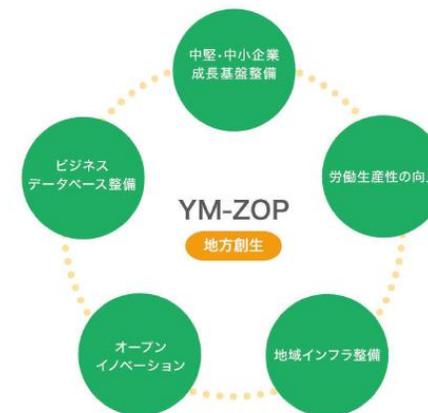
a. 実証の背景と課題 —受託者の取組意義—

■ 会社概要

企業名：株式会社YMFGZONEプランニング



- 山口県・広島県・福岡県を中心に営業展開する金融グループである株式会社山口フィナンシャルグループの100%出資子会社。
- 「地域とともに、未来をデザインする」を事業コンセプトとし、「点（個人・個社）」ではなく、「面（地域・経済レイアウト、事業環境提供等）」の視点でのコンサルティング業務を展開し、地方創生のキーワードである地域・域内企業の生産性向上に向けた総合的な事業活動支援を行う。



■ 本実証における課題認識

- 地域のこどもにスポーツ環境を持続可能な形で提供できない場合、他地域への人口流出が進む可能性がある。
- 中学校の部活動の地域移行における移動問題は行政単体で解決できる問題ではなく、民間企業との連携が必要となる。

■ 本実証における検証ポイント

- 官民連携により実施する本実証を踏まえて、交通事業者である第一交通グループの新たな事業として成り立つか。
- 収益事業と想定するスポーツイベントのノウハウを地域の受け皿団体へ移転し、継続的な実施が可能かどうか。

こどものスポーツ環境を持続可能なものとすることで、地域の担い手となるこどもの流出を防ぐとともに、部活動の地域移行における移動問題を解決する新たな事業を創出することで地域活性化を目指す。

2. 本実証で実証する課題とそのポイント

b.実証ポイント

- 中山間地域の部活動地域移行に際し、特に解決すべき課題を①移動手段の確保、②指導者の確保、収益の確保に設定し、各課題に対応した実証を行う。

解決すべき課題

① 移動手段の確保

- ▶ 複数中学校による合同でのブカツが前提となる中山間地域では学校間の距離が離れており、練習会場への効率的な移動手段が必要。

② 指導者の確保

- ▶ 純営利の民間企業の参入が見込まれづらい地域では、兼職・兼業を視野に入れた潜在的な指導者の発掘、関与が必要。

③ 収益の確保

- ▶ 各種調査における、運営経費と保護者の許容できる月謝の乖離を埋めるため、受け皿団体の新たな収益確保策の検討が必要。

実証項目と検証事項

① 「部活動MaaS」による送迎の実施

- ▶ 乗合アプリを活用したタクシーの送迎は実装することができるか。
- ▶ 保護者自身の送迎の代替手段としてのニーズがあるか、またタクシー会社として送迎の事業性はあるか。

②-1 企業等へのヒアリングの実施

- ▶ 潜在・顕在問わず指導者となり得る人材の数や条件はどのようになっているか。

②-2 合同ブカツの実施

- ▶ 外部、兼職・兼業の指導者による複数校合同の練習で、生徒の満足度や意向はどのように表れるか。

③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

- ▶ 市有体育施設を活用した収益事業の開催は可能か。
- ▶ 児童・生徒のイベントに対するニーズの把握→乖離を埋めることのできる収益事業となれるか。また、なれる場合どの程度埋められるか。
- ▶ 地域移行後の受け皿団体は継続的に同様のイベントを開催できるためのノウハウを蓄積できるか。

3. 実証内容とその成果

3. 実証内容とその成果

a.実証の概要

- 本実証では4項目について、2022年10月から2023年2月にわたって実証を行った。実施に係るスケジュールは以下の通り。

実証のスケジュール

実証項目	10月	11月	12月	1月	2月
① 「部活動MaaS」による送迎の実施	送迎要項の検討・調整 人数・台数・使用車両・アプリ項目			送迎登録	送迎登録
②-1 企業等へのヒアリングの実施	ヒアリング先の選定・調整		ヒアリング実施		
②-2 合同ブカツの実施	開催要項の検討・調整 会場予約・指導者・種目・日程・回数			学校（校長・教員）への説明 指導者への説明 保護者・生徒への説明	送迎の実施 合同ブカツ実施
③ 市有体育施設を活用したイベントの開催	MINEスポ、USFとの開催要項調整 日程・場所・種目・講師・役割分担			運営MTG 参加者募集・送迎登録	送迎の実施 スポーツイベント実施

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

- 【課題意識】複数中学校による合同でのブカツが前提となる地域では、練習会場への効率的な移動手段が必要。
- 【仮説】タクシーとMaaSアプリを活用した送迎は、合同ブカツの移動手段の一つとなるのではないか？

課題意識の背景

- 公共交通機関の便数・ルート数は少なく、自家用車の送迎を除くと所要時間、費用負担の面で効率的な移動手段に乏しい状況にある。
- スクールバスの導入は進んでいるが、ルートの編成は事務的な負荷が大きく、部活動別の移動を考慮した際には、柔軟な運用に耐えられる仕組みの構築が必要。

美祢駅美祢線 標準時刻	
時	平日
6	0
7	18
8	33
9	
10	30
11	
12	
13	15
14	
15	58
16	
17	10
18	
19	2
20	34

美祢市を通る電車の時刻表

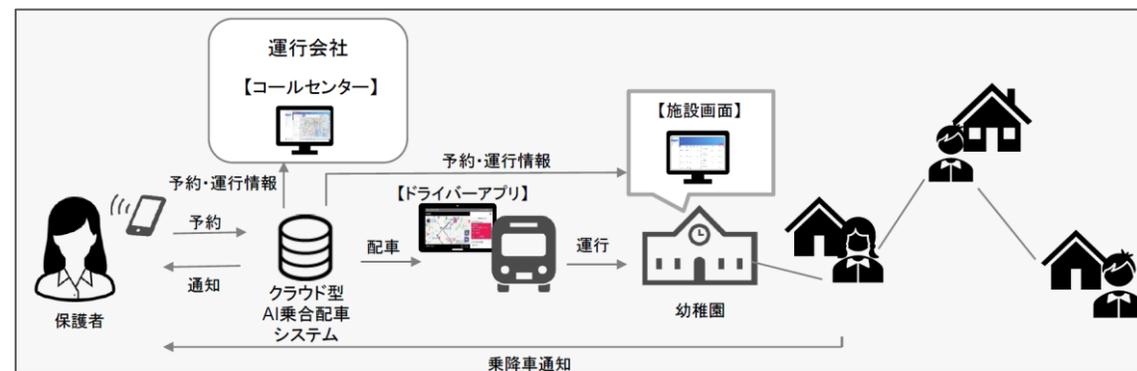


合同ブカツ実施時の送迎範囲

出典：国土地理院 地図を加工

仮説とねらい

- タクシーと乗合配車システムとを活用することで、新たな需要創出と事務負担の軽減を達成でき、事業性（＝持続性）のある移動手段となるのではないか？
- 保護者に対して、送迎の利便性や金額許容度に関するアンケートを実施することで、家庭が望んでいるサービスの内容や満足度を把握する。
- AI配車システムの導入により、生徒の出欠に伴う流動的なルート構築はどの程度事務負担が軽減されるか把握する。



3. 実証内容とその成果

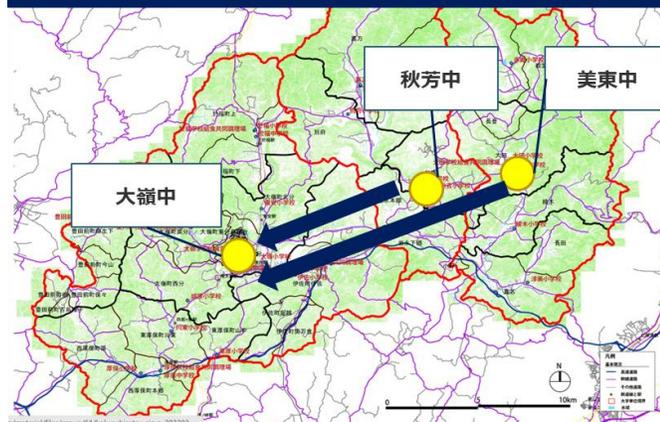
b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎に係る全体像

- 中学校同士で合同ブカツを実施する際の練習会場への移動においては、下記の2通りが想定される。
 - ①平日の放課後に、通っている中学校から練習会場に移動し、練習後、会場から自宅へ帰る
 - ②休日に、自宅から練習会場へ移動し、練習後、会場から自宅に帰る
- 学校間はスクールバス等の対応も可能と考えられるが、自宅への送迎については当日の出席状況等により変動もあり、ルート構築もドライバーの負担となることから、本実証ではMaaSアプリを用いて配車をAIシステムで対応した。
- 平日、休日の両方の送迎パターンについて実施し、課題や費用感について整理を行った。

①平日の放課後に、通っている中学校から練習会場に移動し、練習後、会場から自宅へ帰るルート

(例) バレーボール / 平日 / 行き



(例) バレーボール / 平日 / 帰り



②休日に、自宅から練習会場へ移動し、練習後、会場から自宅に帰るルート

(例) 軟式野球 / 休日 / 行き



(例) 軟式野球 / 休日 / 帰り

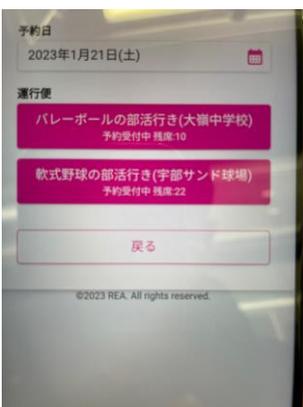


3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎の実施フロー

- 送迎において保護者が送迎登録を実施することから、事前に説明資料を配布。合同ブカツ参加者は、事前にMaaSアプリにて送迎地点・日時を登録し、平日の場合は学校→練習会場→自宅間についてタクシーによる送迎を実施した。



上：バレーボール部、下：ソフトテニス部

保護者向け案内資料

MaaSアプリの申込画面

送迎の様子

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎実施内容一覧

- 平日および休日の計4日間実施した合同ブカツにて、のべ197名の送迎を実施。
- 乗車/降車地点の多い送迎では、最初に乗った/最後に降りた生徒の乗車時間が60分を超える送迎も発生した。

ブカツ日時	実施種目	区分	乗車人数 (実数)	送迎時間	送迎台数	最小 乗合人数	最大 乗合人数	
1月13日 (金) 17:00~18:30	男子ソフトテニス 女子ソフトテニス	行き (学校→会場)	13名	約15分	3台	1名	7名	
		帰り (会場→自宅)	12名	約90分	2台	6名	6名	
行き (自宅→会場)		20名	約60分~90分	3台	4名	9名		
帰り (会場→自宅)		19名	約60分~80分	4台	2名	8名		
1月14日 (土) 09:00~12:00		行き (学校→会場)	33名	約20分~30分	6台	1名	9名	
		帰り (会場→自宅)	33名	約20分~60分	7台	1名	9名	
1月20日 (金) 17:00~18:30	女子バレーボール 軟式野球	行き (自宅→会場)	36名	約20分~80分	6台	2名	9名	
		帰り (会場→自宅)	31名	約20分~60分	5台	4名	9名	
1月21日 (土) 09:00~12:00			行き (学校→会場)	33名	約20分~30分	6台	1名	9名
			帰り (会場→自宅)	33名	約20分~60分	7台	1名	9名

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎前に発生した事象

● 合同ブカツの出欠、送迎の要否の輻輳

・・・保護者、学校、山口第一交通、YM-ZOPでの参加者、送迎の要否に関する情報が輻輳する事態が生じた。明確な受け皿団体が決定していない現状において、本実証はYM-ZOPが部活動の出欠確認、山口第一交通が送迎可否確認を行う役割分担としていたが、初の試みであることも含めて情報連携に不備が発生したことが原因の一つとして考えられる。地域移行後は学校の関与を前提としないため、本実証でも学校・教員の関与を最小限にとどめる形で運営しており、合同ブカツの開催周知のみ依頼していた。生徒の合同ブカツ出欠および送迎の要否は、配布した案内資料に記載のQRコードより保護者が登録することで把握する想定であったが、登録状況が想定よりも滞る学校もあり、実際には生徒の参加意向状況を確認してもらうという作業依頼が発生した。

- 合同での部活動となった際の運用について、**現状の部活動にない要素（移動や時間管理）が発生するため、その部分を指導者に一任するのは負担が大きい。地域移行にあたっては、指導者とは別に取りまとめや運営管理を行う人材が必要。**
- **スケジュール案内、出欠、費用管理を一元的に管理できるアプリの導入に送迎も組み合わせることができれば、解決できる課題と考えられる。**

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎時に発生した事象（予約・通行）

● 送迎の登録ができない、地点の相違

・・・送迎の予約に使ったアプリは、登録ができないという問い合わせが想定よりも多く、送迎地点や要不要が思い通りに登録されていないケースも散見された。

- **住所が変な場所に指定されていた問題**：登録された迎え場所が山の中になっており、急遽保護者に確認し、時間ロスが発生した。今回は、配車に関する登録状況に不備がないかを事前に確認するよう依頼していたため、自体がその場で判明し対処が遅れたことは運営側の問題。配車の仕事は今この時に対応する、というマインドで動いているため、アプリだけでなくその運用も整備する必要があると思われる。
- **送迎の要不要の認識がずれていた問題**：練習の参加と送迎の要否は保護者の登録で把握していたが、土曜朝、登録上は送迎不要となっていたが実際は迎えに来てもらう予定だったため、参加が遅れ、結果的に欠席する生徒が1人いた。

● ジャンボタクシーで通行不可な地点の存在

主にジャンボタクシー（9名定員）の車両を活用したが、狭路のため進入できない場所があり、急遽、普通車タクシー（定員4名）へ配車を変更する対応が必要になった。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎時に発生した事象（「行き」に要する送迎時間）

- 「自宅→会場」の送迎について、60分以内に送迎できるようにAI乗合システムを設定し、事前にお迎え時間をメールにて通知していたが、時間に来られなかったり、自宅内で車両を待っていた為、ベルで呼び出しを行うなど、送迎にロスタイムが発生し、約90分の時間を要した。
 - 慣れにより短縮できる余地もあるものの、「こどもの送迎」という属性では、1乗車当たりの乗車時間が長いことが分かったため、それを加味した配車計算が必要である。
 - 行きの行程は、辺りが暗い等の制約がなければ、停留所を決めた上での送迎も選択肢として考えられる。

ブカツ日時	実施種目	区分	乗車人数 (実数)	送迎時間	送迎台数	最小 乗合人数	最大 乗合人数
1月14日（土） 09:00～12:00	男子ソフトテニス 女子ソフトテニス	行き（自宅→会場）	20名	約60分～90分	3台	4名	9名
1月21日（土） 09:00～12:00	女子バレーボール 軟式野球	行き（自宅→会場）	36名	約20分～80分	6台	2名	9名

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 送迎時に発生した事象（「帰り」に要する送迎時間）

- 「会場→自宅」の送迎について、乗合人数を優先して送迎したため、送迎の所要時間が60分を超える結果となり、保護者の方より「現在どのあたりなのか？」等のお子様を心配する問合せがあった。
 - 送迎の所要時間が予定を超過したことにより、通知していた到着予定時間と実際の到着時間の乖離が生じ、結果として保護者が不安を感じる事態が発生した。
 - 到着予定時刻・現在地点の明確化、送迎時間そのものの短縮が必要。**

ブカツ日時	実施種目	区分	乗車人数 (実数)	送迎時間	送迎台数	最小 乗合人数	最大 乗合人数
1月13日（金） 17:00～18:30	男子ソフトテニス 女子ソフトテニス	帰り（会場→自宅）	12名	約90分	2台	6名	6名
1月14日（土） 09:00～12:00	男子ソフトテニス 女子ソフトテニス	帰り（会場→自宅）	19名	約60分～80分	4台	2名	8名
1月20日（金） 17:00～18:30	女子バレーボール 軟式野球	帰り（会場→自宅）	33名	約20分～60分	7台	1名	9名
1月21日（土） 09:00～12:00	女子バレーボール 軟式野球	帰り（会場→自宅）	31名	約20分～60分	5台	4名	9名

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

保護者アンケートの実施

■ 保護者アンケート概要

- アンケート方式：FormsによるWebアンケート
- 調査対象：合同ブカツに参加し、送迎を利用された生徒の保護者（66名）
- 回答期間：2月15日～2月28日
- 回答件数：回答31件（回答率46.9%）

■ アンケート項目

1. お子さんの部活動、通学について

- ✓ 回答される方と合同部活動に参加したお子さんとの関係
- ✓ 所属している部活動
- ✓ 通学時の交通手段

2. 合同部活動と送迎について

- ✓ 参加した合同部活動
- ✓ 自宅から練習会場までの距離
- ✓ 利用したタクシーの送迎、利用しなかった理由
- ✓ 総合的な送迎の満足度、「満足」とならなかった要因
- ✓ 有料となった場合の利用検討、「利用する予定はない」の理由
- ✓ 許容できる料金（1回あたり、1ヶ月あたり）
- ✓ 許容できる乗車時間（行き、帰り）
- ✓ 送迎への負担感、場面
- ✓ スマホ・PCの利用状況
- ✓ 自由記述

3. 部活動の地域移行について

- ✓ 部活動の地域移行への取組の認知
- ✓ 部活動の活動目的で重視するもの
- ✓ 部活動の指導者に求めるもの
- ✓ こどもが部活動を決めるときに大事にしたいポイント
- ✓ 希望する活動の日数
- ✓ 自由記述

※ 3. については、d.その他の活動に関する報告にて詳述する。

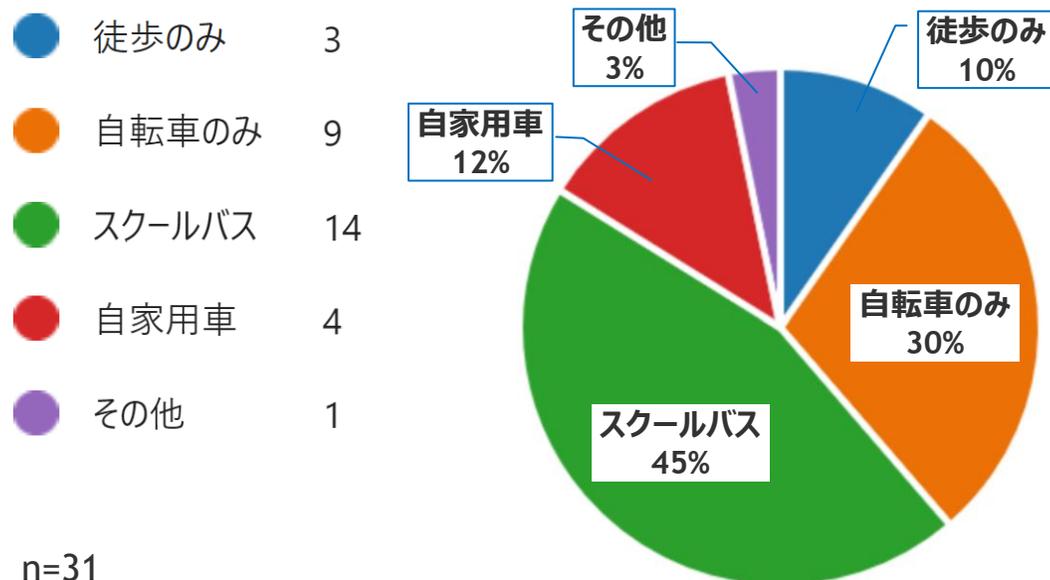
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

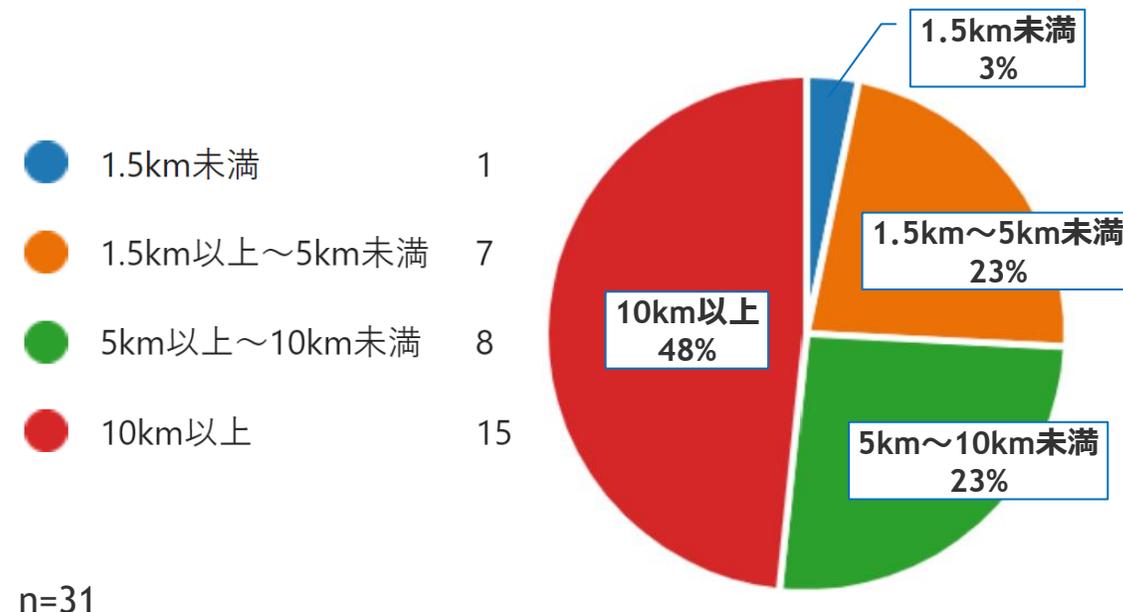
■ アンケート結果（回答者の通学・移動状況）

- 通学時の交通手段について、回答者の過半数（スクールバス45%+自家用車13%）は車を利用して通学している。
- 自宅から練習会場までの距離について、回答者の半数近く（48%）が今回の練習会場から自宅まで10km以上あり、7割以上が5km以上離れている。

通学時の交通手段



自宅から練習会場までの距離



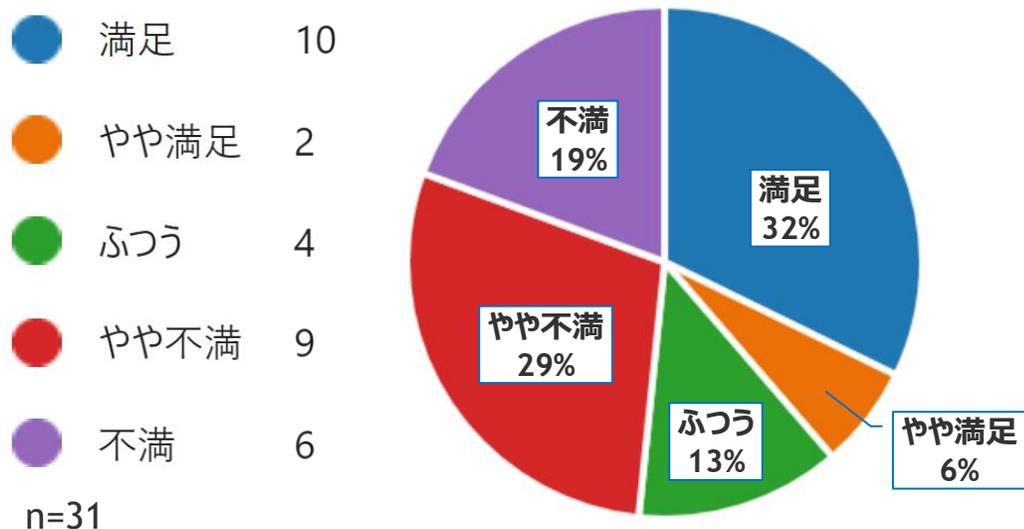
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

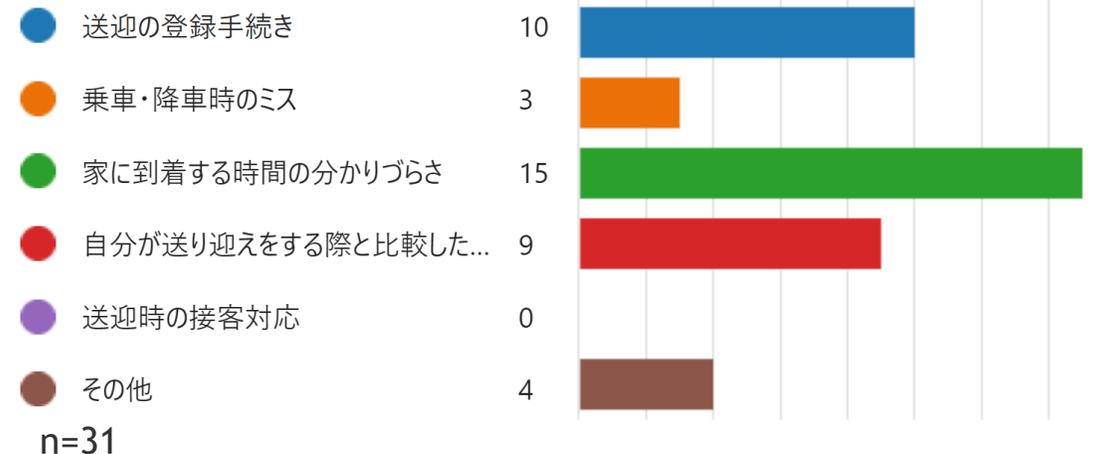
■ アンケート結果（送迎の満足度）

- 送迎の満足度について、満足傾向（満足+やや満足）の回答が4割程度、不満傾向の回答が半数程度を占めた。
- 満足とならなかった要因について、「家に到着する時間の分かりづらさ」とする回答が最も多く、次いで「送迎の登録手続き」があげられた。
→サービス利用時の事前説明の方法を再度検討する必要がある。本実証では、多くの利用者が配車アプリを使用することが初めてであり、より丁寧な導入説明が必要だったと推測される。
→家に到着する時間が分かりづらいため回答が多いが、メールにてお迎え時刻を案内しており、「送迎に遅延が発生した際の到着時間がわからない」と推測される。このことから、リアルタイムで乗車位置が分かる機能を付加する必要がある。

送迎の満足度



満足とならなかった要因



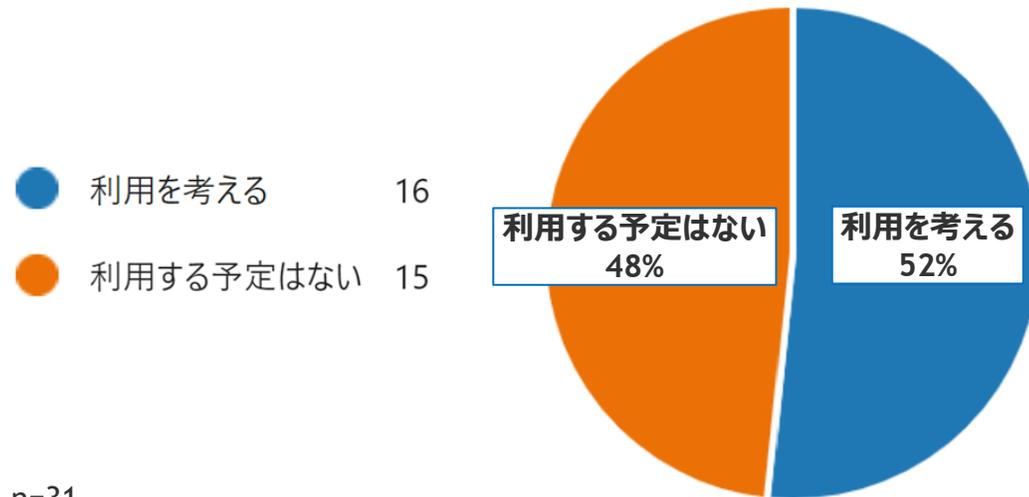
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

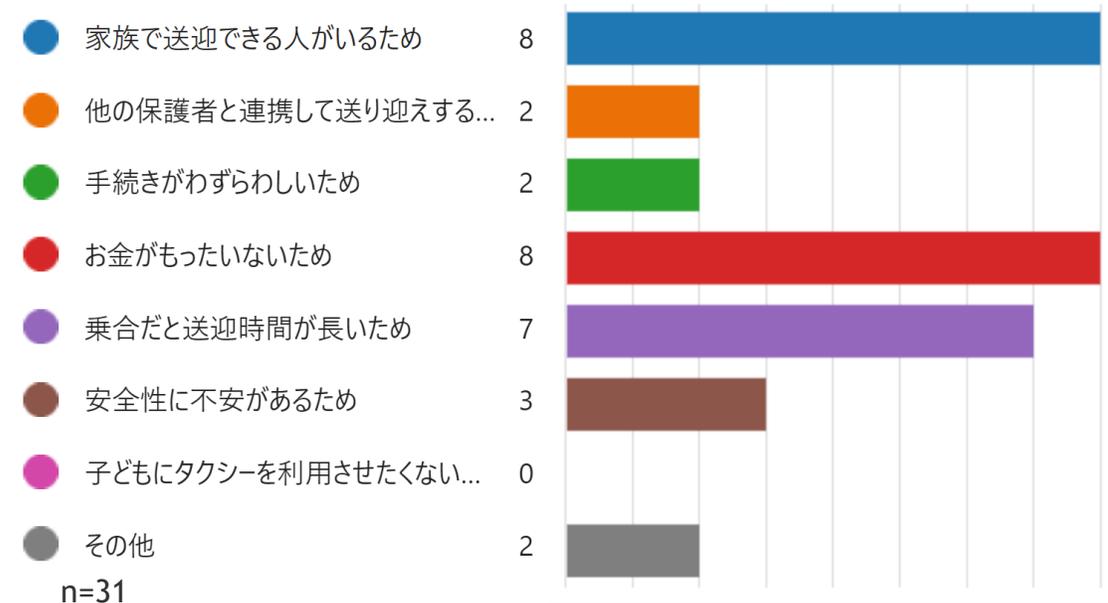
■ アンケート結果（有料となった際のサービス利用可能性）

- 今回のような送迎サービスが有料となった場合の対応について、半数程度が利用を考えるとの回答であった。
→利用者のうち半数以上が利用を考えるとの回答であり、タクシー事業者としては新規マーケットと捉えることができる。
- 「利用する予定はない」と回答した理由について、本サービスに頼らない送迎体制がある層が半数程度であった。
→残りの回答はサービスに対する意見であり、説明やサービスの改善を図ることで顧客となる可能性があると考えられる。

有料となった場合の利用検討



「利用する予定はない」と回答した理由



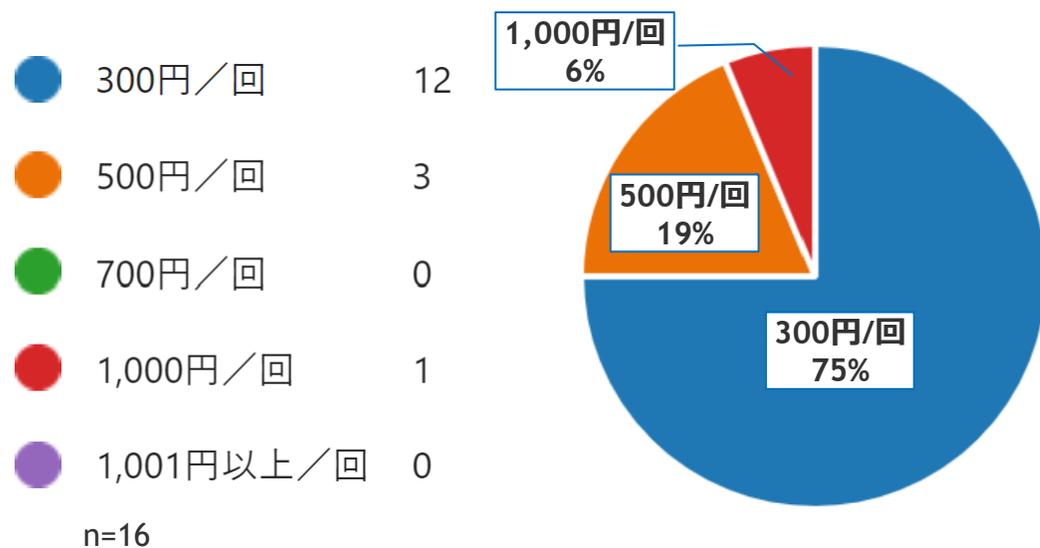
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

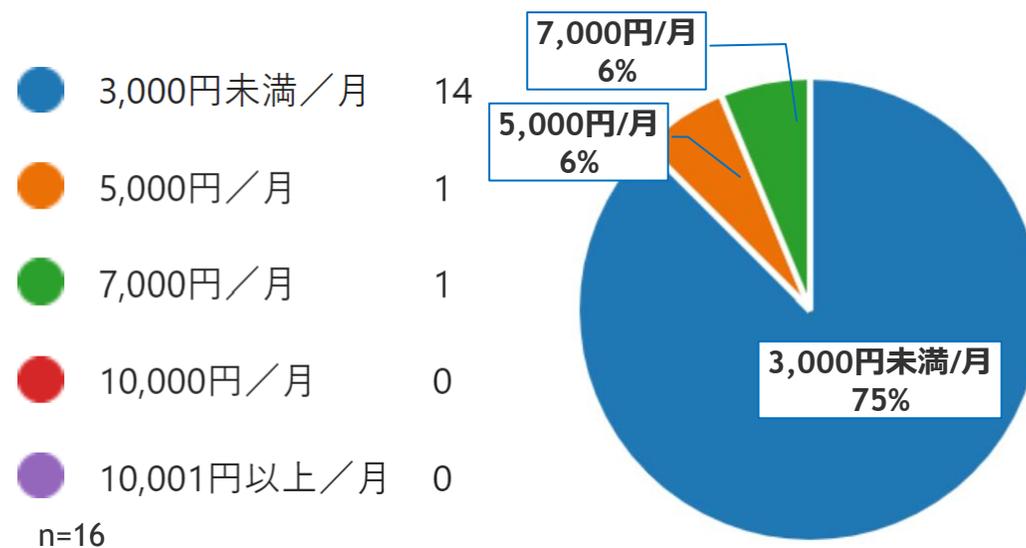
■ アンケート結果（許容できる金額）

- 片道の送迎1回あたりの許容金額について、利用を検討すると回答したうちの75%が300円/回という結果となったが、それ以上の金額を許容する層も存在する。
→ベースとして300円/回を考慮する必要があるものの、送迎料の値上げ幅に若干の余地がある。
- 定期送迎（10往復程度/月）の許容金額について、85%が3,000円/月と回答しており、7,000円超を許容する回答はなかった。

1回の送迎（片道）の許容金額



定期送迎（10往復程度/月）の許容金額



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

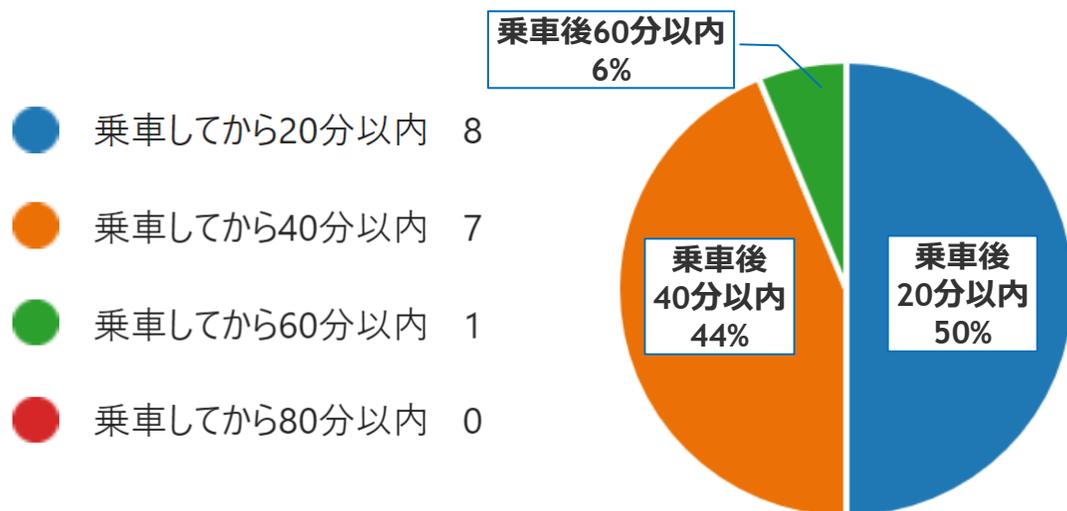
■ アンケート結果（許容できる送迎時間）

- 許容できる平日練習後の自宅への到着時間について、乗車後40分以内が回答者の9割以上を占めた。

- 許容できる休日練習前の自宅からの出発時間について、練習開始の50分前が9割以上を占めた。

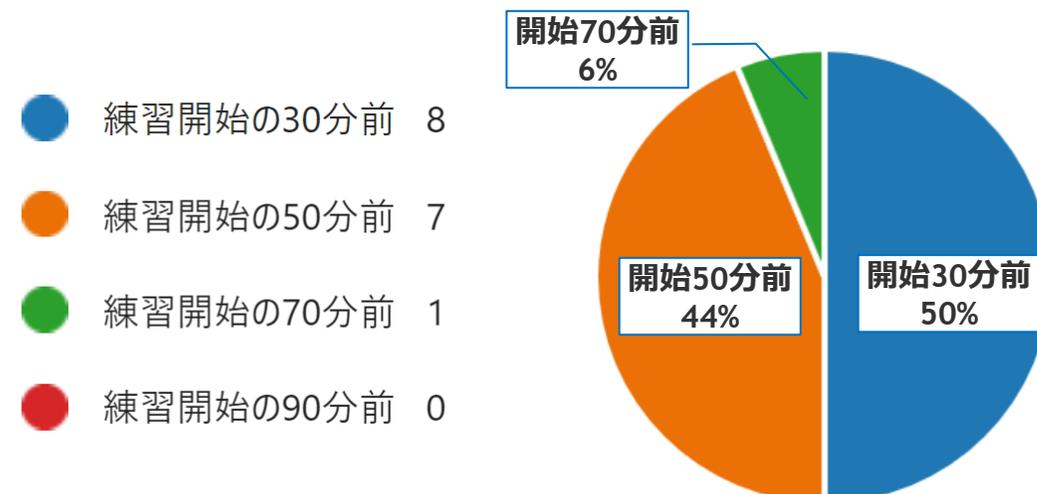
→平日・休日ともに、広範囲をジャンボタクシー（9名定員）で送迎を行う場合は40分～60分はかかるため、顧客の要望に応える送迎とするためには、1台の送迎エリアを一定以内にした運行、乗合人数の減少（＝普通車タクシーでの運用）とする必要がある。

許容できる到着時間（平日）



n=16

許容できる出発時間（休日）



n=16

3. 実証内容とその成果

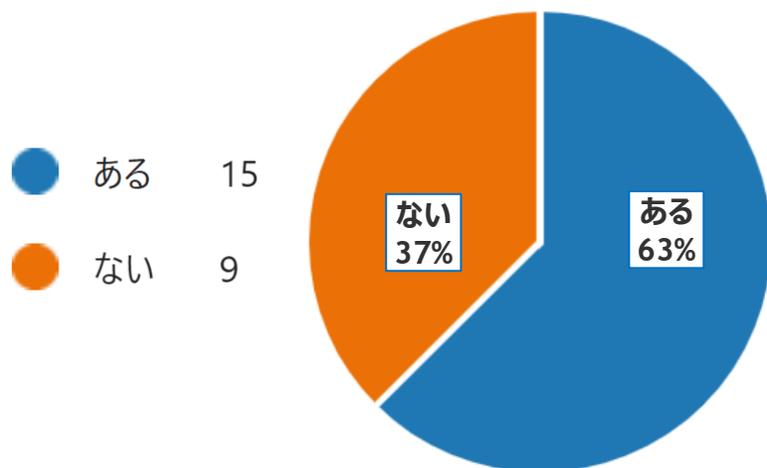
b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ アンケート結果（こどもの送迎全般に関する負担感）

- 本実証における送迎にかかわらず、部活動や習い事での送迎を負担に感じた経験について、回答した保護者の6割以上が負担に感じていることが分かった。
- 送迎を負担に感じる場面について、仕事や家事との調整、要する時間の長さなど様々であり、「こどもの送迎」は生活全般における制限や負担となっていることが窺える。

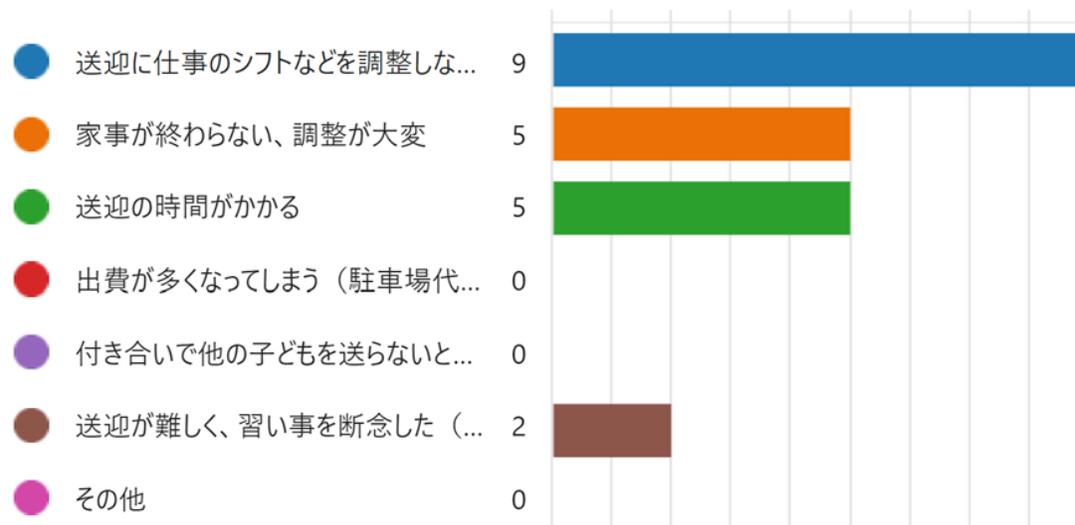
→送迎サービスの品質を向上させることによって、本実証の回答者の6割は、広義の需要が見込める潜在的なマーケットと考えられる。

送迎を負担に感じた経験の有無



n=24

送迎を負担に感じる場面



n=21

3. 実証内容とその成果

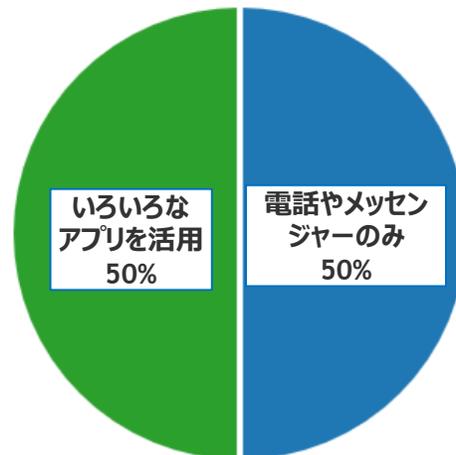
b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ アンケート結果（スマホ・PCの利用状況）

- 回答者の私生活におけるスマートフォンやPCの利用状況について、回答者の半数が「電話やメッセージのみ」という結果であった。
- よく利用するスマホアプリについて、InstagramやTwitterなどのSNSのほか、基本機能に近いものみの利用傾向にあるように看守できる。
→回答者が利用状況をありのままに記述していないとを考慮したうえでも、利用傾向の高いアプリは特に直感的な操作ができるものであるため、配車アプリについても同様の工夫、あるいは活用に関するより丁寧な説明、窓口の設置により、利用者の満足度は上がると推測される。

（回答者の）スマートフォン・PCの利用状況

- 電話や簡単なメッセージのみ（LI... 12
- 会員アプリを入れるくらい 0
- それ以外のいろいろなアプリを利用し... 12

（回答者の）よく利用するスマホアプリ（）内は回答数

Instagram (6)
 Google (2)
 位置情報などのナビゲーションアプリ (2)
 アラーム (1)
 銀行 (1)
 ゲーム (1)
 Twitter (1)
 radiko (1) ほか

n=24

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ アンケート結果（送迎に関するご意見・ご要望の抜粋）

- 送迎に関する意見について、送迎時間、送迎方法、費用負担等に対する意見が集まった。
- 送迎時間に関しては、時間の遅れとともに予定時刻との差異を不安に感じる回答が多く、方法については、必ずしも自宅での乗降に限定せず近辺での乗降を提案する意見もあった。
→到着までの所要時間の短縮、通知と到着時刻の一致、現在地の確認については改善が求められており、今後のサービス利用拡大のためには重点を置くべき要素であることが分かる。

送迎に関するご意見・要望（抜粋）

● 送迎時間に関すること

- ✓ 今回初めての事だからとは思いますが、送迎到着予定時間を大幅に遅れ、スマホ持参禁止となっている子ども1人で待たせる事への不安がとても大きかったです。
- ✓ 到着予定時刻との大幅な時間のズレがあったので大変心配になりました
- ✓ 当日の送迎時刻がこちらに分かるのが数時間前なので前もってわかれば早く知らせて欲しい
- ✓ メールで送られてきた予定時刻を大幅に遅れていて不安になった。
- ✓ 1時間近く遅れていた。初日だったから仕方ないものの、連絡一つなく、今どこのあたりを通過したのかせめてわかるようにしてほしい。家で待つ者としては暗いしかなり心配した。
- ✓ 時間が不透明

● 送迎方法に関すること

- ✓ 土日の送迎は家までではなく、学校や公園等に集合させてもいいように思った。
- ✓ 帰りはタクシーの通るルートであれば自宅以外でも下車できるようにして頂きたいです。自宅付近まで連れて帰って頂けるのであれば迎えに行き乗車時間を少なくしたいです。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ アンケート結果（送迎に関するご意見・ご要望の抜粋）

- 送迎に関する意見について、費用負担、送迎時間、送迎方法に対する意見等が集まった。
- 費用負担に関しては、このような送迎が有料となることへの反対意見が集まった。根拠として、部活動に準ずるサービスは公的な負担とすべきという意識が根底に存在していることが窺える。
→本サービスの実装、料金設定は今後議論すべきであるが、一部の意見であることは考慮しつつも、部活動に関するサービスに対する負担への忌避感、公的なサービスとして要求する姿勢が存在することは、先例となる実証と同様の結果となった。

送迎に関するご意見・要望（抜粋）

● 費用負担に関すること

- ✓ 部活動が合同になったとしても、学校教育の一貫と考えており受益者負担として送迎を有料とするのはおかしい。
- ✓ 地域格差を無くすためには送迎代が無料でないという意味が無い。
- ✓ 税金で賄うべき
- ✓ 学校から活動場所までは無料で送って頂きたいです。
- ✓ 市内の全ての家庭で参加しやすい状態にならないと、子育て中の家庭では費用負担ができる家庭とそうでない家庭とで格差が生じる。公立学校の本来の設置目的から外れてくる。送迎についても民間頼みでなく、地域の維持発展のプロである行政がしっかりと対応して解決しないと、20年後にはもっと困難な状態になることが予想される。

● その他

- ✓ アプリが使いづらい
- ✓ 万が一の時はどうするのか

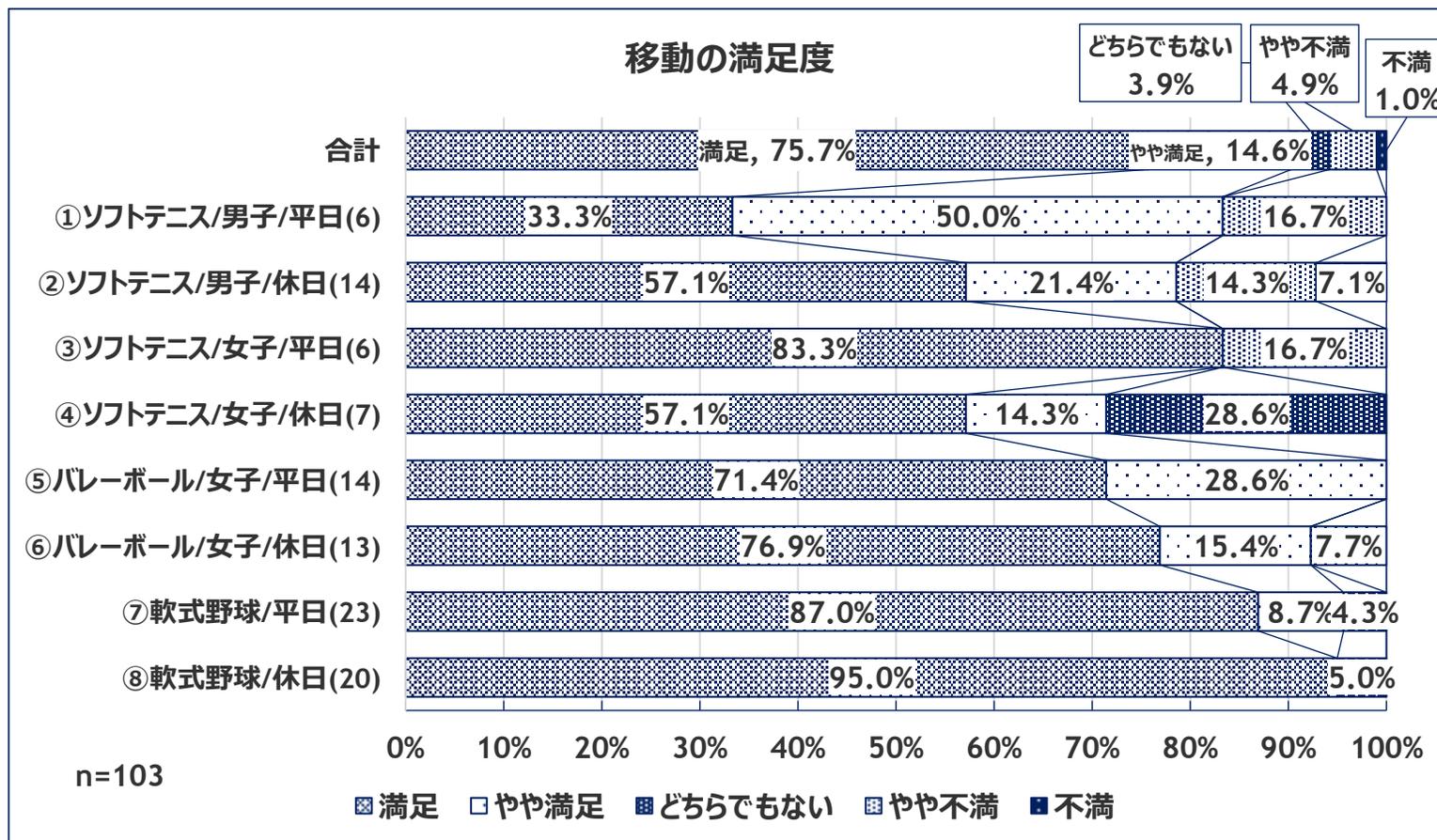
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

生徒アンケートの実施

■ アンケート結果（送迎の満足度） ※合同ブカツに関するアンケート結果は3.b.②にて詳述

- 今回の送迎において、生徒へのアンケートでも送迎の満足度に関する設問を設けており、回答者の9割以上が満足傾向にある結果となった。
→生徒自身が享受した移動サービスそのものは、丁寧な接客、非日常感も相まって高い満足度となったことが要因として考えられる。



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

取組結果の考察

■ 課題解決の方向性（出欠確認、送迎予約）

課題	解決策・サービスの方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 送迎サービス主体が利用者に分からず、利用者からの連絡系統が困惑（送迎事業者、学校） ✓ 送迎事業者へのみ欠席連絡があり、顧問や教員へは出欠の変更が伝わっていなかった。また、合同ブカツに参加するが、送迎申込を行っていないなど、事業者と学校で役割が明確になっておらず、連絡系統が困惑した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業者、学校の役割の明確化が必要 ➤ 利用者（保護者）が困惑しないように「送迎は事業者」、「部活動は学校」といったように役割を決め、役割・連絡体制を構築する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 送迎サービスのアプリ登録や利用方法について周知が不十分 ✓ 登録方法や利用方法について「分からない/教えてほしい」等の問合せがあった。多くの方が、配車アプリを利用したことがないため、書面での利用案内のみでは不足していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者への事前説明と周知活動、問合せ窓口の構築が必要 ➤ 事前説明会や利用説明会を実施して利用方法の周知を図るなど、丁寧な導入案内を行う必要がある。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 課題解決の方向性（送迎の所要時間）

課題	解決策・サービスの方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 「乗り合い送迎」の特性上、1乗車あたりの時間が長くなるため、送迎の遅延が発生 ✓ お迎えの約90分前にお迎え時間をメール通知していたが、乗車される方の勘違いにより乗車が遅れ、運行が大幅に遅れる事案が発生した。また、自宅迎時、屋内で待機されていたため、インターホンで呼び出しを行うなどの遅延が発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 送迎の遅延を想定した運行計画が必要 ➤ 送迎に関するルールとして「予定時間より5分経過後は、次に進行する」、「お迎え時間には玄関前で待つ」などのルールを定める必要がある。 ➤ 1乗車あたりの時間を約5分～6分見込んだ運行計画を立てる必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ● 乗車時間について、利用者からの許容範囲が短い ✓ 60分間の計画で乗合効率を優先して送迎を行ったが、アンケートの結果から、利用者（保護者）側が許容できる送迎の所要時間は20分～40分とに集中しており想定よりも短い結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 送迎時間を優先した運行計画が必要 ➤ 運行エリア、または送迎距離を設定し、送迎時間を優先した運行計画を策定する必要がある。 ➤ 収益性を上げるため、乗合効率の高いジャンボタクシー（定員9名）での運用が望ましいが、定員未満での運行の可能性や送迎時間を考慮し、普通車タクシー（定員4名）を活用するなどの検討が必要である。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 課題解決の方向性（安心・安全の担保）

課題	解決策・サービスの方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● タクシーの現在位置が分からず、こどもの安否確認ができない ✓ 「今どのあたりを走っているのか?」、「いつもより遅いから心配」など、こどもの状況を心配される保護者からの問合せが多数あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の安全性の担保が必要 ➢ 「こどもの送迎」という特性を踏まえ、保護者が安心できるよう、リアルタイムで乗車位置が把握できるシステム構築を検討する必要がある。 ➢ 狭路のための迂回、悪天候、忘れ物、ドライバーの進路ミス、ブカツの進行状況で出発が遅れる可能性など、イレギュラーでの遅延の理由は多岐にわたるため、対応する必要がある。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

送迎サービスの事業性の検討

■ アンケート結果の考察

- 一定の需要、送迎サービスの提供によるライフスタイルの改善に寄与できる余地があることが分かった。
- 支出の許容金額は一回あたり300円～500円が限度である。
- 送迎時間の関係上、ジャンボタクシー（定員9名）よりも普通車タクシー（定員4名）での乗合送迎が望ましい結果となっている。

■ 事業性の検討におけるシミュレーションのパターン（送迎距離、運賃）

- 送迎距離、乗車定員別に次の4パターンを設定した。
 - ①隣接校（約6km区間） × 普通車タクシー（定員4名）
 - ②隣接校（約6km区間） × ジャンボタクシー（定員9名）
 - ③遠隔校（約18km区間） × 普通車タクシー（定員4名）
 - ④遠隔校（約18km区間） × ジャンボタクシー（定員9名）
- 上記4パターンにおいて、運賃シミュレーションを実施。単価（300円/回、500円/回）、送迎頻度（1回、月4回、月20回）をそれぞれ設定し、実際の運賃との差異を算出し事業性を検討する。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ シミュレーション①（約6km区間・普通車タクシー）

- 近隣2校の合同ブカツの開催が現実的な秋芳中・美東中のソフトテニス部（現部員数：男子22名、女子14名、合計36名の送迎）が一方の学校に集合した（送迎距離：6km）モデル。普通車タクシー（定員4名）での運用。
- 1名につき、300円/回、500円/回のシミュレーションでは、どちらも収支はマイナス（300円/回の場合、**10,350円**/回のマイナス）。

収支シミュレーション（上：300円/回、下：500円/回）

送迎回数	運賃収入 (36名×300円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	10,800	9台	21,150	-10,350
2回（1往復）×月4回	86,400	72台	169,200	-82,800
2回（1往復）×月20回	432,000	360台	846,000	-414,000

送迎回数	運賃収入 (36名×500円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	18,000	9台	21,150	-3,150
2回（1往復）×月4回	144,000	72台	169,200	-25,200
2回（1往復）×月20回	720,000	360台	846,000	-126,000

想定ルート（秋芳中～美東中間、約6km）



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ シミュレーション②（約6km区間・ジャンボタクシー）

- 近隣2校の合同ブカツの開催が現実的な秋芳中・美東中のソフトテニス部（現部員数：男子22名、女子14名、合計36名の送迎）が一方の学校に集合した（送迎距離：6km）モデル。ジャンボタクシー（定員9名）での運用。
- 普通車タクシーでの送迎と比較すると収益性が改善し、300円/回では変わらず収支はマイナスだが、500円/回の場合、プラスに転じる（500円/回の場合、**400円**/回のプラス）。

収支シミュレーション（上：300円/回、下：500円/回）

送迎回数	運賃収入 (36名×300円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	10,800	4台	17,600	-6,800
2回（1往復）×月4回	86,400	32台	140,800	-54,400
2回（1往復）×月20回	432,000	160台	704,000	-272,000

送迎回数	運賃収入 (36名×500円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	18,000	4台	17,600	400
2回（1往復）×月4回	144,000	32台	140,800	3,200
2回（1往復）×月20回	720,000	160台	704,000	16,000

想定ルート（秋芳中～美東中間、約6km）



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ シミュレーション③（約18km区間・普通車タクシー）

- 遠方の学校（大嶺中学校と美東中学校）が合同ブカツを実施、一方の学校に集合した（送迎距離：18km）モデル。普通車タクシー（定員4名）での運用。※パターン①、②との比較するため部員数は合計36名と設定。
- パターン①、②比較して送迎距離が長くなったことで収益性が悪化し、300円/回、500円/回ともにマイナスとなる（300円/回の場合、**-41,490円**/回のマイナス）。

収支シミュレーション（上：300円/回、下：500円/回）

送迎回数	運賃収入 (36名×300円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	10,800	9台	52,290	-41,490
2回（1往復）×月4回	86,400	72台	418,320	-331,920
2回（1往復）×月20回	432,000	360台	2,091,600	-1,659,600

送迎回数	運賃収入 (36名×500円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	18,000	9台	52,290	-34,290
2回（1往復）×月4回	144,000	72台	418,320	-274,320
2回（1往復）×月20回	720,000	360台	2,091,600	-1,371,600

想定ルート（大嶺中～美東中間、約18km）



出典：国土地理院 地図を加工

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ シミュレーション④（約18km区間・ジャンボタクシー）

- 遠方の学校（大嶺中学校と美東中学校）が合同ブカツを実施、一方の学校に集合した（送迎距離：18km）モデル。ジャンボタクシー（定員9名）での運用。※パターン①、②との比較するため部員数は合計36名と設定。
- 普通車での送迎のパターン③比較して必要台数が減少したことで収益性は改善したものの、300円/回、500円/回ともにマイナスとなる（300円/回の場合、**-24,400円**/回のマイナス）。

収支シミュレーション（上：300円/回、下：500円/回）

送迎回数	運賃収入 (36名×300円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	10,800	4台	35,200	-24,400
2回（1往復）×月4回	86,400	32台	281,600	-195,200
2回（1往復）×月20回	432,000	160台	1,408,000	-976,000

送迎回数	運賃収入 (36名×500円)	のべ 必要台数	運賃	運賃との 差異
1回（片道）	18,000	4台	35,200	-17,200
2回（1往復）×月4回	144,000	32台	281,600	-137,600
2回（1往復）×月20回	720,000	160台	1,408,000	-688,000

想定ルート（大嶺中～美東中間、約18km）



出典：国土地理院 地図を加工

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ①「部活動MaaS」による送迎の実施

■ 事業化の可能性に関する考察

- 送迎およびアンケートから、改善点はあるものの、保護者の方々の送迎負担と送迎サービスに対する一定の需要があることが分かった。
→**タクシー事業者の新しいビジネスマーケットとして捉えることができる。**
- 実際に送迎により、**主要な改善点**として、**MaaSアプリの利便性向上**（丁寧な説明の実施、操作性の向上、現在地の把握機能の搭載）、**所要時間の短縮**（1台の運行範囲・乗車定員の制限、乗降車時の所要時間短縮、登録ミスの減少）があげられる。
- 送迎距離、用いる車両別に4パターンでの事業性の検討を行ったが、利用者の支払許容額のボリュームゾーンは片道300円となっており、本実証での送迎距離を鑑みると、単純な運行のみではタクシー事業者にとって採算の取れない事業となってしまう。
→**持続可能な収益性を実現し、事業展開を行うためには、広告収入や行政からの補助等運賃以外の収益の確保が必要**である。
→また、行政だけでなく、教育委員会又は学校と連携し、学校サービスとしての導入案内を行うことができれば、学校徴収を活用した運賃收受などを検討することができ、利用促進と事業の安定化を図ることができるものと考えられる。
- なお、運送に伴い徴収する運賃については**道路運送法第9条**において「**適正な原価に適正な利潤をくわえたものを超えないもの**」と定められており、**所定の運賃を徴収する必要がある**（仮に生徒から500円で徴収したとしても差分の補填が必要）。運賃引き下げは国土交通大臣の認可等の規制がある状況であり、部活動の地域移行における運行については公共性の高い事業であることから、仮に行政補助を行う場合でも、運賃に係る制度の見直しを併せて検討することで、総合的な採算性を見直しにつながると考えられる。

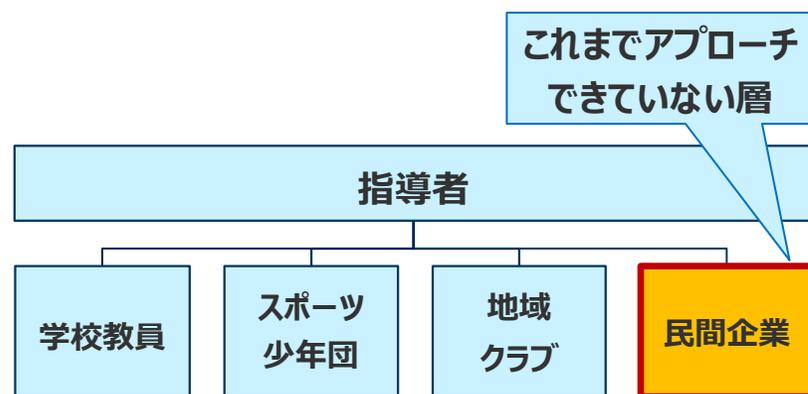
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

- 【課題意識】純営利の民間企業の参入が見込まれづらい規模の地域では、兼職・兼業を視野に入れた潜在的な指導者の発掘、関与が必要。
- 【仮説】地域の民間企業等にいる潜在的な指導者が多様な働き方を適用できた場合、人員確保の有効な打ち手になるのではないか？

課題意識の背景

- 部活動の地域移行に際しては、一定量の指導者を確保し、流動的に対応可能な体制を整える必要があるが、人口の少ない地方では指導者の確保が困難となっている。
- 美祢市では、学校教員、スポーツ少年団、地域クラブとのつながりを基に指導者の確保に向けて調整を行っているが、民間企業についてはアプローチが不足している状況にある。



仮説とねらい

- 地域の民間企業等にいる、指導意欲はあるが仕事との関係で参画できていない潜在的な指導者層を、多様な働き方を適用によって掘り起こすことで、人員確保の有効な打ち手になるのではないか？
- 市全体としての潜在/顕在の種目別指導者の概数を把握する。
- 兼職・兼業への理解促進とともに、ボトルネックとなっている条件（企業側、指導者側両方）を把握する。
- ヒアリングと同時に、企業に対して部活動の地域移行に関する理解の促進を図ることで、民間企業内のクラブ活動との連携や、協賛等の可能性を模索する。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

ヒアリングの実施

- 潜在的な指導者および指導者としての参画の条件を把握するため、企業・競技団体計21先にヒアリングを実施した。
- ヒアリングでは、上記の他に社内でのクラブ活動の実施状況や企業としての地域移行後のブカツに対する支援の可能性についても伺った。

■ ヒアリング概要

- ヒアリング実施期間：2022年11月25日～2023年1月17日
- 実施手法：対面による聞き取りおよび書面による回答
- 対象先数：民間企業17先、競技団体4先、合計21先

■ ヒアリング項目

1. 中学校における部活動の地域移行について

- ✓ 部活動の地域移行が検討されていることへの認知・印象など

2. 組織内での人材について

- ✓ 従業員等の所属者のスポーツ経験有無や指導資格の保有状況
- ✓ 組織内での部活動や同好会などの有無や活動状況

3. 地域移行後の部活動の指導について

- ✓ 組織内で部活動の指導希望者がいた場合の活動容認可否およびその条件
- ✓ 従業員等が部活動で指導することに対する印象
- ✓ 従業員等の部活動指導に際しての企業として何らかの支援可能性

4. 中学校との合同ブカツについて（組織内での部活動等がある場合）

- ✓ 合同ブカツの実施可能性の有無や課題・条件
- ✓ 従業員等のブカツ指導に際しての企業として何らかの支援可能性

5. その他

- ✓ 合同部活動への協賛、寄付の可能性について
- ✓ 今回のヒアリングを踏まえ、企業または部門責任者としての意向（ご自由に）
- ✓ その他ご意見・ご感想

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

■ ヒアリング結果（企業側の視点①）

- 企業ヒアリングは主に人事・総務部署に対して行ったが、従業員のスポーツ経験や指導資格の有無を把握している企業は少なかった。
- 従業員の指導者としてのブカツへの参画は、受け持っている業務への影響度合いに応じて諾否を判断するという回答が大半であった。

1. 中学校における部活動の地域移行について

- 企業等については、特に認識していない方が多数派。認識していても美祢市における取組状況を詳細に知っている人はいなかった。
- 現状を説明した際には地域移行の必要性関する大きな異論は聞かれなかった。

2. 組織内での人材について

- 従業員等の所属者のスポーツ経験有無や指導資格の保有状況について、把握していない企業の方が多数派であった。
- 組織内での同好会があると回答したのは17先中2先に留まり、うち1先は従業員の親睦を深めることを目的として運営費を助成していた。

3. 地域移行後の部活動の指導について

- 部活動の指導希望者に対する活動の容認可否およびその条件については、業務への影響度合いに応じて対応するという企業が太宗を占めていた。
- 業務時間内/外、有償/無償の4条件にてヒアリングを行った結果、下記のような回答があった。
業務時間外かつ無償・・・ほぼ容認（主な理由：従業員の自由だから。業務時間外の行動まで管理把握していないため。）
業務時間外かつ有償・・・基本的に容認が多数派。（就業規則等を理由に不可とする企業は少数派。労務上の管理面で個別に相談が必要との回答が多数派。）
業務時間内（早上がり・時間休等含む）・・・有償/無償を問わず基本的には不可との回答が多数派。（貴重な従業員であり、業務に支障が出るような状況は避けたい。）
- 上記の回答について、市から地域移行に関する受け皿団体の位置づけ、指導者の契約形態等の指針が打ち出された場合には、より検討をしやすくなるとの回答が多数事業者よりあった。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

■ ヒアリング結果（企業側の視点②）

- 企業としてブカツ指導への参画自体には良好な印象を持っており、指導者の供出よりも協賛等の経済的な援助に前向きな回答が多かった。
- 具体的な対応に関する検討は、受け皿団体の位置づけや指導者の契約形態などを踏まえて判断したいという声が総じて聞かれた。

3. 地域移行後の部活動の指導について

- 従業員等が部活動で指導することに対する印象としては良好な印象を持つ回答がほとんどであり、地域への貢献活動に積極的に参加してほしいとの意見が聞かれた。

4. 中学校との合同ブカツについて（組織内での部活動等がある場合）

- 企業としてのクラブ・同好会活動との合同ブカツの実施可能性について、同様の活動を行っている2先は、指導というかしこまった形式はハードルが高いが、レクリエーション的な活動を一緒に行うことに関しては歓迎する姿勢であった。

5. その他

- 合同ブカツへの協賛、寄付の可能性について、指導者の供出の諾否と比較して前向きな企業が多かった。その際、規模の大きい企業からは、協賛を行うことの意義が説得的に伝えられる資料があれば円滑な手続きが可能との声が聞かれた。
- ブカツにおける指導者としての経験が自社での業務に活用できるかについては、マネジメントのスキルとして生きるという回答、別個のスキルであるとの回答の両方があり、企業によって異なった。
- 地域移行への動きについて、総論として賛成だが、各論（特に企業としての参画や指導者の供出）に関しては、地域移行に関する受け皿団体の位置づけ、指導者の契約形態等の全体像が固まるまでは検討が難しいとの回答が多くあった。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

■ ヒアリング結果（指導者側の視点①）

- スポーツ指導者として活動している方へのヒアリングでは、会社員などの勤務後に指導を行っているケースも見られた。
- 地域移行後のブカツの活動日数について、現在より少ない頻度・兼部の形態での活動を歓迎する意見も聞かれた。

● 指導者としての活動状況

- 約15年前から美祢市秋芳地域のスポ少にて軟式野球の指導を行っている。数年前より中等部を新たに設置する形で美祢市内全体の中学生を対象に教えている。大会には出ておらず、参加者は中学校の野球部と兼ねて所属している。（軟式野球）
- 現在中学生を対象にしたクラブチームで指導している。活動は平日の夜（勤務後）と土曜日の午後に週2-3日程度、中学校の体育館などで行っている。クラブに所属するのは、バレーボール部がない中学校の生徒（中学校では別の部活に所属）、バレーボール部がある学校の生徒のうち希望者など様々。（バレー）
- スイミングスクールを運営しているが、水泳に関しては、従来から学校よりもクラブチームが受け皿になるケースが一般的になっている。週に1回のコースから週5日以上練習するコースまで幅広いニーズに応えることは、運営者として行っていきたい部分である。（水泳）

● 活動日数について

- 必ずしも週5を前提にすることはない。平日は自分も指導できないし、土日のみでよい。土日は野球、平日は他の文化活動という生徒がいて良いと思う。毎日やりたい人はボーイズやシニアにでも通えばいい。その分ガイドラインは土日のどちらか休むではなく柔軟な運用の方が良い。もっとも中体連の大会は年1回のため、別にそれに認められなくてもそれほど支障はないが。（軟式野球）
- 別の部活動と兼部して、週1日トレーニングとして来てもらうことは可能。こどもの発達段階として、中学生以上は承認や評価を重視することになるため、小学生のようなレク志向が継続することにはやや疑問が残る。（水泳）

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

■ ヒアリング結果（指導者側の視点②）

- 既存の部活動・スポ少よりも多い人数での指導体制とする案に対しては、指導方針の統一が図れなくなることを懸念する声もあった。
- 参加することもへの費用徴収について、最小限としての団体が多く、比較的家庭の経済状況に左右されないスポーツ環境ができあがっている。
- チームの指導者の数について
 - （市内のチームがまとまることになった場合、今の各チームの監督やコーチが同じチームに集って指導者群となる可能性もあるが、チームの運営や指導方針に関する懸念はあるか？との質問に対し）自身の経験上は、チームの方針を統一できる指導者数は3,4人が上限と感じている。監督によって昭和なスタイルの方もいるし、全部を一つにまとめるという発想が先行すると実状と乖離する可能性がある。（軟式野球）
- 保護者の負担について
 - 現在の月謝は一人1,000円。足りない分は、自分がキャッチャー道具を寄贈したり、地域の企業経営者がボールなどをカンパしたりしていただくことで対応している。金銭的な部分以外では、送迎の負担が大きい。監督をしているスポ少では、就任してからまずお茶出し等の保護者負担を真っ先になくした。保護者が居づらい状況では、子どもも定着しづらいため。（軟式野球）
 - 現在の月謝は一人あたり1,000円。兄弟の場合は2人目から半額。道具は学校のものを使わせてもらっているが、会場費、移動費、大会参加費などでぎりぎりの状態。（バレーボール）
 - 週1回のコースは、月謝8,000円程度で運営している。競技志向が高いコースはほぼ毎日来て長い時間活動し、マンツーマンに近いような指導にはなるが、稼働分を月謝には反映できておらず、競技志向の高いコースほど採算性が低いのが実態。（水泳）

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

■ ヒアリング結果（指導者側の視点③）

- 指導資格について、ヒアリングを行った方々は4人とも取得されている方であったが、種目によっては資格の保有がそれほど重要視されていない場合もあった。
- ヒアリングをしたスポ少・クラブ指導者は無報酬に近い状態であり、指導者側の使命感によってスポーツの機会が守られている、持続可能とは言い難い状況にある。
- **指導者の資格について**
 - 自分は資格を取った。今後それらを持っていないと指導ができなくなる可能性があると聞いたため。（軟式野球）
 - 日本スポーツ協会の資格を持っているが、自分のお金で受講した。（バレーボール）
 - 指導者の資格について、自身含め公認資格は保有している者もいるが、NFの方針変更による所管の変更などもあったため、正直なところ資格がその人の技能や資質を裏付けるものとはなっていない認識。そのため、採用や業務運営の際にはそれほど絶対視していないという状況。（水泳）
- **その他**
 - 地域移行した場合は、水泳の場合は多種目をメインで行う選手のトレーニング的意味合いも含めて裾野が広がりチャンスになるかもしれない。（水泳）
 - 当地はバレーボールが盛んな地域で経験者も多いが、時間帯や報酬の額を鑑みると指導をしたいと考える人は少ない。なんとかバレーボールをできる環境を維持したいという気持ちでやってきている。（バレーボール）

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施

■ ヒアリング結果を踏まえた考察

- ヒアリングの結果、民間企業等の従業員のブカツ指導への参画可能性について、現段階で就業時間内の指導対応は困難だが、その他の金銭的な支援等による地域企業との連携可能性は見込むことができる。
- **企業の副業・兼業の可能性**
 - 企業の副業・兼業については、地域産業の人手不足の課題も含めて、就業時間内の指導対応については困難な状況にある。一方で、土日の休み等の就業時間外における指導対応は概ね容認されており、一つの手法として地域のブカツ時間に合わせたシフト構築などは検討の余地があると考えられる。
 - 就業時間内の対応に関しては、企業単体というよりは行政等のより詳細な方針の明確化があると、企業としては対応の検討を進められる可能性が高い。
- **地域企業の部活動地域移行への協力、関心**
 - 地域移行の動きについては総論として賛成の企業が多く、企業の協力意識は高い様子が伺えた。また、合同部活動への協賛、寄付の可能性について、指導者の供出よりも前向きな企業が多かったことから、現状の指導者への報酬や団体への支援に協力いただくことで、指導者の離脱防止も含めた間接的な指導者確保につながると考えられる。
- **指導者の負担する費用**
 - ヒアリングを行った方々は4人とも指導資格を取得されており、取得に関しては自費負担のケースが多い。また、スポ少・クラブ指導者は無報酬に近い状態であり、指導者側の使命感によってスポーツの機会が守られている、持続可能とは言い難い状況にある。上述の企業からの金銭的支援と連携して取組を進める必要があると考えられる。

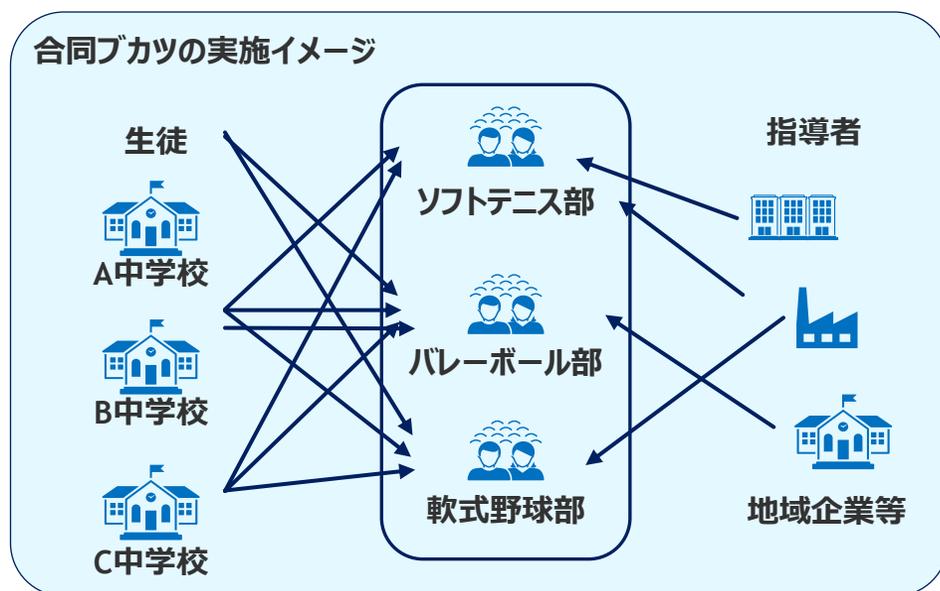
3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

- 【課題意識】単独校でのチーム維持は生徒数の観点からも困難だが、必要な指導者数という意味でも非効率な側面を持つ。
- 【仮説】複数校合同のブカツをスタンダードな実施形態とすることで、各校ごとの指導者派遣よりも少ない人数でのブカツ実施が可能になるのではないか？

課題意識の背景

- 限られた指導者数のもとに複数中学から生徒が集まる合同ブカツは、指導者の確保において有効な打開策だが、教員以外の指導者の信頼度、学校として行うことの意義、複数校となることの質の低下等の懸念がある。



仮説とねらい

- 複数校合同のブカツをスタンダードな実施形態として運営可能であれば、各校ごとの指導者派遣よりも少ない人数でのブカツ実施が可能になり、指導者の確保と同様のフィージビリティを高めることに資するのではないか？
- 学校が主体とする部活動を地域に移行する際に、隠れていた教員の負担や合同とすることによる新たな事務作業の発生など、運用上の具体的なロジスティクスを確認する。
- 学校が主体とする部活動が、地域主体に切り替わることによる様々な懸念（教員以外が指導者となることへの不安、部活動は学校運営上必要な活動であるという反論）に対する合意形成プロセスを確認する。
- 指導者という言葉に内包されている、マネジメントを行う人、個別の種目に関する技能を教授する人、スポーツに共通する体づくりの方法を指南する人など様々な役割は、分担することができるか確認する。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

■ 合同ブカツ実施一覧

- 各校の部員数、設置状況等から、合同となった場合運営上の効率性、持続性が高まる点に着目し、ソフトテニス部（男子・女子）、バレーボール部（女子）、軟式野球部の3種目において合同ブカツを実施した。
- 合同ブカツは3種目で計8回実施し、中学校5校からのべ130人以上の生徒が練習に参加した。

種目	ソフトテニス部（男子・女子）		バレーボール部（女子）		軟式野球部	
実施日時	1/13（金） 17:00～18:30	1/14（土） 9:00～12:00	1/20（金） 17:00～18:30	1/21（土） 9:00～12:00	1/20（金） 17:00～18:30	1/21（土） 9:00～12:00
場所	●男子 ※雨天 大田小体育館	●男子 秋芳北部 総合運動公園	大嶺中学校体育館		宇部サンド美祢球場	
	●女子 ※雨天 秋吉小体育館	●女子 秋芳テニス場				
中学校	美東・秋芳 のべ39人		大嶺・美東・秋芳 のべ40人		伊佐・厚保・大嶺・美東・秋芳 のべ56人	
外部指導者	美祢市ソフトテニス連盟		学校教員、地域クラブ指導者、YMGUTS		スポ少指導者ほか	

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

■ 合同ブカツの実施に係る説明のフロー

- 合同ブカツの試験的開催に向けて、市教委、中学校（管理職）、中学校（教員）、生徒の順番で説明を行った。
- 実施にあたっての協議時に最も多く論点にあがったのは実施時間帯の変更に伴う安全確保であり、これらの確保を以て実施への理解が進んだ。



■ 実施説明時の論点

- 実証に関する校長先生への説明で、最も懸念の声があがったのは教員の拘束時間が長くなることに対する説得ができないという点だった。今回の合同ブカツは、①複数中学校での活動、②外部コーチによる指導、③タクシーによる移動等これまでにない取組の要素が多いことから、保護者への理解を得やすくするという意図も含めて教員への参加を依頼している。屋外で行う部活動は設備の都合上日没とともに終了するのが通例だが、今回は照明のある施設で実施、移動を含めると開始が通常時より遅くなるという点も加わり、通常行う部活動よりも終了時刻がかなり遅くなる予定となっていた。
- 美祢市が目指す地域移行の姿からすれば、教員の参加は過渡的な段階での措置であり、将来的に円滑な地域移行が実施されれば教員の負担を減らすことにつながるが、それが現在の教員の負担増の理由にはならないという校長の言い分は最もであり、練習時間を若干短縮すること、顧問もタクシー同乗いただくことも選択肢としていたが、希望者のみに変更することで応諾いただいた。
- 校長はじめ管理職の行動原理として、トラブルの対応は自身が責任者となるためリスクとなる要素の洗い出しをすることが求められること、学校教員も赴任校に限らずネットワークを有するため、校長ごとに説明の足並みが乱れると不満のもとになるという状況から、新しいことに対して総じて慎重な姿勢となることは理解でき、それらを踏まえて丁寧に説明していくことが重要であることが分かった。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

■ 合同ブカツの内容

- 合同ブカツでは、地域の競技団体加盟者、現役アスリート、教員、スポ少指導者など多様な背景を持つ人が指導者として参画した。

ソフトテニス部（男子・女子）



- 美祢市ソフトテニス連盟に所属する方による指導を実施。
- 競技経験、指導経験の豊富な方の指導により最初は緊張していた生徒も徐々に声出しをするようになり、技術の向上に喜ぶ様子や、他校の生徒との混合練習を楽しんでいる様子が見られた。

バレーボール（女子）



- 指導は市内中学校バレー部顧問が実施。
- 地域クラブの指導者による球出し等の支援もあり、指導に注力できたとの意見あり。
- 休日の合同ブカツでは、ハンドボールクラブ YMGUTSによる体幹トレーニング等の指導を実施。球技に共通する部分もあり、生徒や顧問からも好評であった。

軟式野球部



- 3種目の中で最も多い中学校5校による合同ブカツであり、指導者側から事前に綿密な打ち合わせをしたとの連絡あり。
- 打ち合わせを実施した結果、初めて顔を合わせるメンバーが多い中でも、活気のある練習が実施された。
- 生徒からも他校の生徒の練習の様子がとても参考になるとの声があった。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

生徒アンケートの実施

■ 生徒アンケート概要

- アンケート方式：合同ブカツ後にアンケート用紙を配布
- 調査対象：合同ブカツに参加した生徒（のべ135名）
- 回答期間：合同ブカツ実施当日
- 回答件数：回答135件（回答率100.0%）

■ アンケート項目

1. 参加者自身について

- ✓ 性別
- ✓ 学年
- ✓ 所属している部活動

2. 合同ブカツについて

- ✓ 練習の満足度
- ✓ 合同ブカツの満足度
- ✓ 合同ブカツにまた参加したいか

3. 希望する部活動について

- ✓ 部活動で一番大事にしたいこと
- ✓ 練習を教えてくれる指導者に求めるもの
- ✓ 入りたい部活動を決めるときに大事にしたいポイント

4. 部活動以外の習い事や塾について

- ✓ 放課後や休日に行っている活動

5. タクシーでの送迎について

- ✓ 移動の満足度

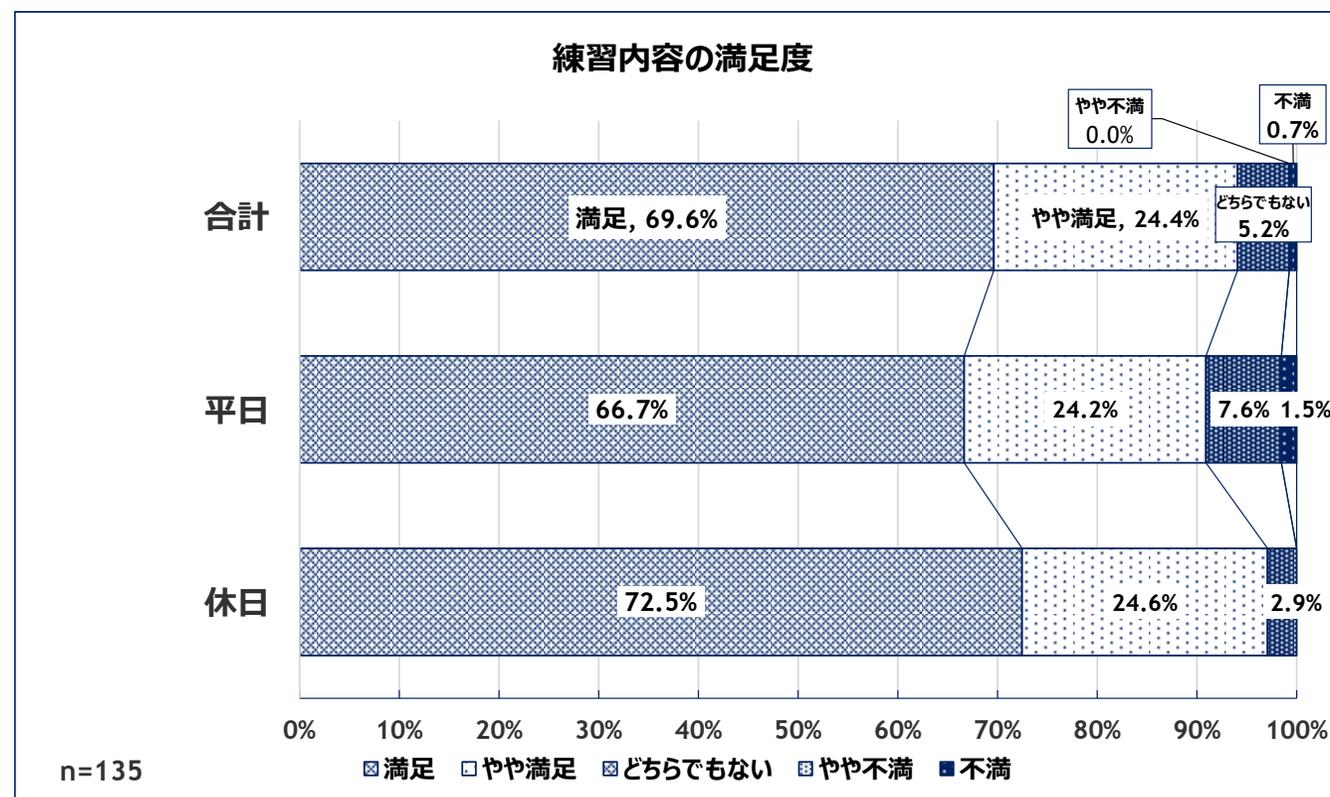
※ 3. については、d.その他の活動に関する報告にて詳述する。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

■ アンケート結果（練習の満足度）

- 今回の練習そのものへの満足度（満足＋やや満足）は、9割以上が満足と回答した。
 - 通常のリコーンとの比較する質問はできないが、教員に限定せずとも満足度の高い練習を実施することは可能と考えられる。
 - 希望者の参加としたが、そもそものスポーツをするという活動をあまり望んでいなさそうな生徒がいることも現地では数名確認でき、満足度が低い生徒の中には選択肢の少なさが起因している可能性も捨てきれない。

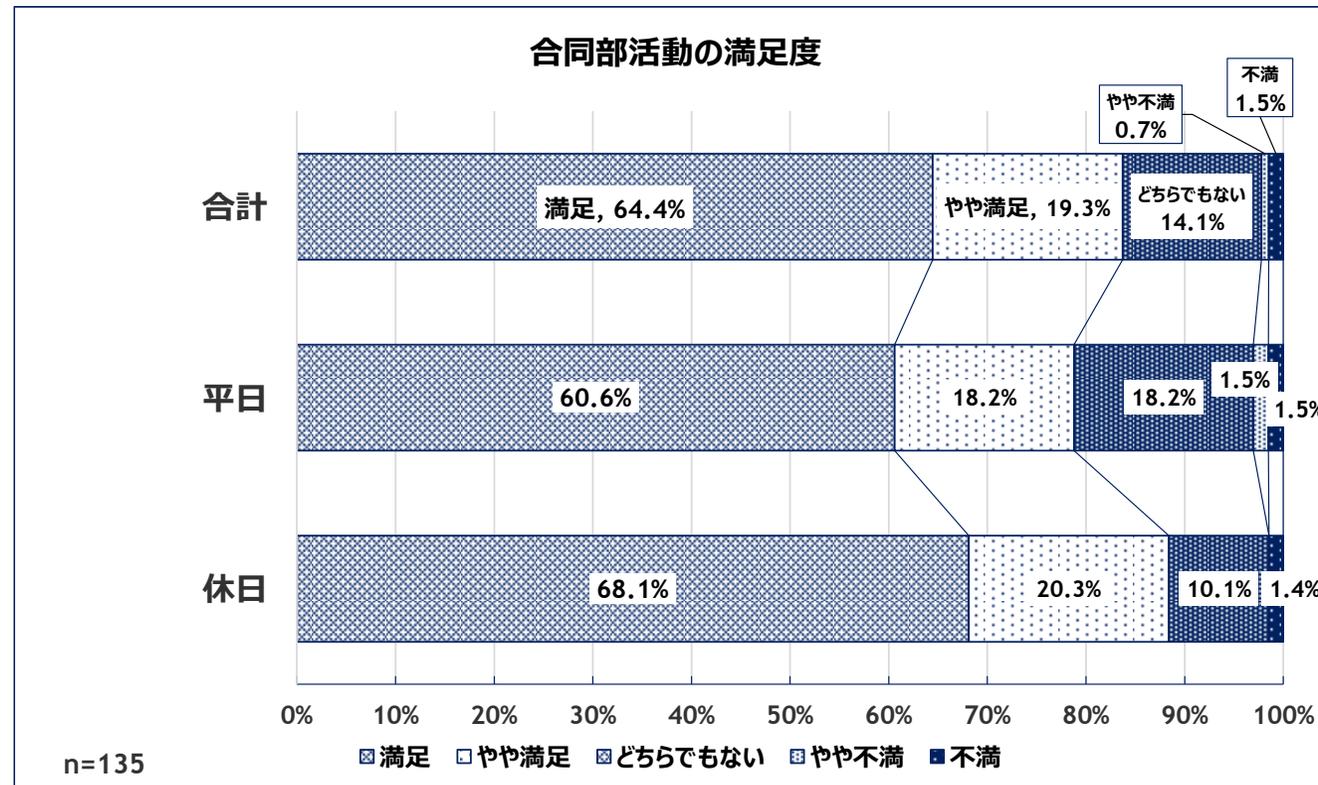


3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

■ アンケート結果（合同部活動自体の満足度）

- 生徒の合同部活動の満足度は、8割以上が満足（満足＋やや満足）と回答した。どの種目も休日の方が満足度が高かった。
 - 複数の中学校の合同チームになることについて、大半の生徒はポジティブな反応。
 - 合同で練習を行うのは、平日の短時間よりもまとまった活動時間のとれる休日の方が効果的。
 - わずかではあるが、現在でのチームでの活動を望む意見も存在した。

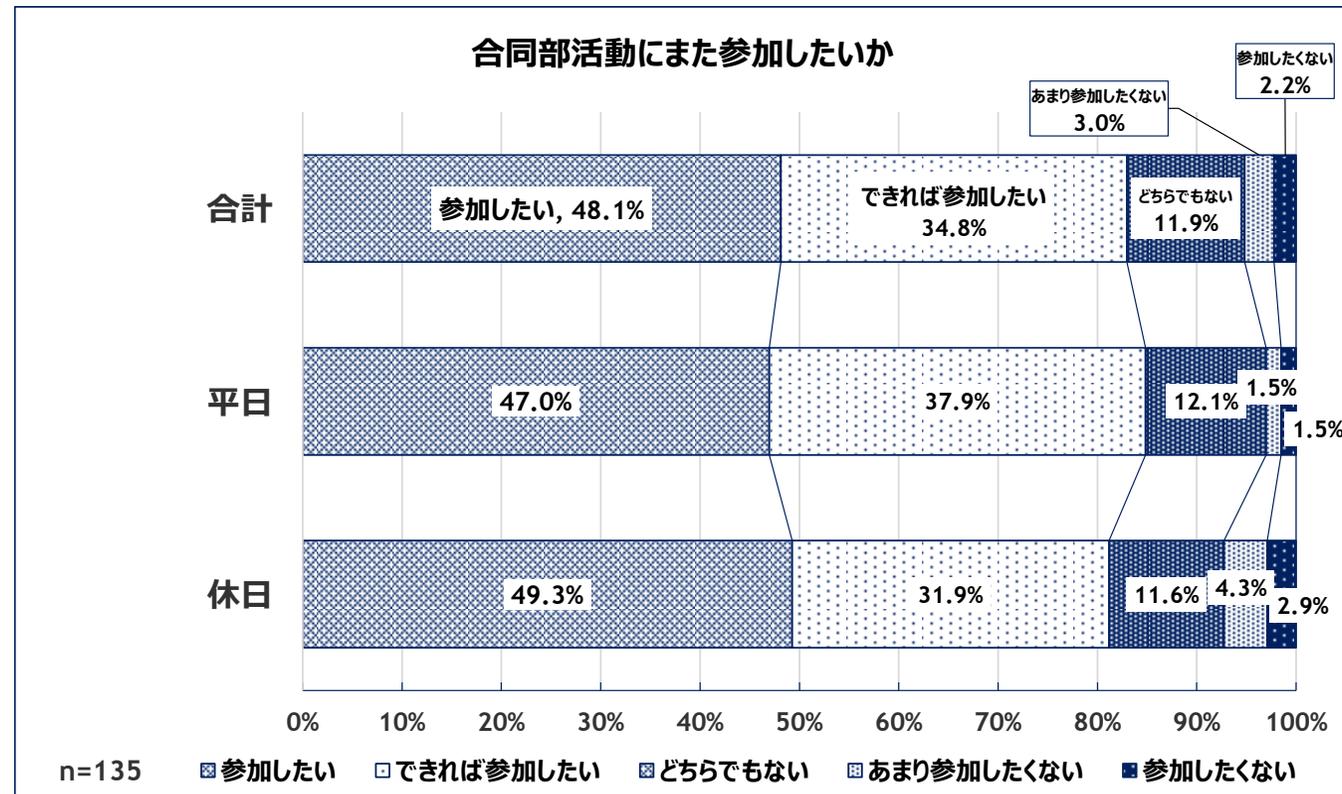


3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-2 合同ブカツの実施

■ アンケート結果（合同部活動への参加意向）

- 回答した生徒の8割以上（参加したい+できれば参加したい）が、合同部活動への参加希望があると回答した。満足度と比較すると強く希望する生徒の割合は減った。
 - チーム編成について触れていないものの、合同部活動に関して生徒の抵抗は少ない。
 - 移動などに要する時間が多いことから、「できれば」の割合が増えたことが推測される。



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ②-1 企業等へのヒアリングの実施, ②-2 合同ブカツの実施

■ ヒアリング・合同ブカツを踏まえた指導者の確保に関する考察

- 地域の民間企業等に潜在的な指導者が存在するという仮説について、棄却されてはいないが、現段階で概数を把握することはできなかった。
- 地域移行時に必要な指導者数の確保状況と比べて、それぞれの種目にそれぞれ数名がコーチとして加わる必要がある。

- 企業へのヒアリングによる、潜在的な指導者の把握は、①人事・総務部門が従業員の業務以外の活動や特性について必ずしも感知しているわけではないこと、②地域移行後の指導者としての活動頻度や報酬、契約形態が定まっていない状況では、仮定であっても言明することが難しいことの2点から、明確な潜在的な指導者の数の把握はできなかった。
→受け皿団体や指導者の活動に関する詳細の明確化、その後の呼びかけが必要。
→企業に対するアプローチは、協賛等の経済的な援助の方向では有効性が確認されたため、そちらに特化した関係を継続的に構築することが望ましい。
- 美祢市では、地域移行に向けた「部活動運営協議会」を立ち上げており、メンバーには各種目の活動を束ねるマネージャー的存在が参画している。
- 美祢市が実施した教員に対するアンケートでは、約10名の教員は地域移行後も指導にかかわり続けたい意向を示している。
→継続的な運営を見据えた場合、各種目に1～3名のコーチが加わる必要がある。
→今後の指導者発掘の方向性として、顕在している指導者メンバーの交友関係をたどることが地道ではあるが最も有効な施策と考えられる。

地域移行後に設置が想定される種目

- | ● 現在部活動がある種目 | ● 部活動はないが、クラブチームや指導者がいる種目 |
|--------------|---------------------------|
| ➤ 陸上競技 | ➤ バスケットボール |
| ➤ 軟式野球 | ➤ 柔道 |
| ➤ バレーボール | ➤ ラグビー |
| ➤ ソフトテニス | ➤ 空手 |
| ➤ 卓球 | ➤ サッカー |
| ➤ 剣道 | ➤ 華道 |
| ➤ 弓道 | |
| ➤ 吹奏楽 | |

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

- 【課題意識】運営経費と保護者の許容月謝の乖離を埋めるため、受け皿団体の新たな収益確保策の検討が必要。
- 【仮説】受け皿団体となる団体が、魅力的なスポーツイベントを開催することにより、新たな収益確保策となるのではないか？

課題意識の背景

- 過去の市町合併や学校の統廃合により、市内には13の体育館をはじめとする社会体育施設が多く、使用料も130円～510円/1時間（体育館）と安価にもかかわらず、稼働率は高いとは言い難い。
- 稼働率が低い背景として、クラブ等継続・自主的な集まりでの使用以外活用が少なく、広く対象を募る形式でのイベント開催は、実行できるノウハウを持つ団体が少ない。



仮説とねらい

- 受け皿団体となる団体が、魅力的なスポーツイベントを開催することにより、新たな収益確保策となりうるかについて確認する。
- 既に開催実績のある団体と協力することにより、イベント開催に関する知見を習得する。
- 参加者・保護者から求められているイベントの傾向を聴取することでより具体的な志向を把握する。
- 簡易的なブカツ運営に充てることのできる金額のシミュレーション
参加者（60名／回） × 回数（12回／年）
× 一人当たり粗利（1,000円／人） = 720,000円
- 現在は中学生以下を対象としたスポーツイベントだが、本イベントの運営や想定顧客の反応に応じて、対象とする顧客や開催する内容のピボットを検討する。

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

スポーツイベントの実施

■ スポーツイベント概要

- イベント名：スポーツフェスティバルin美祢
- 開催日時：2023年2月25日（土） 12:00～16:00
- 会場：美祢スポーツセンター（山口県美祢市伊佐町伊佐4885）
- 参加者数：58名（事前申込数：50名）
- 催行者：主催・・・株式会社YMFG ZONEプランニング
共催：美祢市教育委員会・山口第一株式会社、
一般財団法人UNITED SPORTS FOUNDATION
協力：MINEスポーツマネジメント共同企業体

参加者内訳（人）

学年	女	男	計
小2		2	2
小4	1	15	16
小5	5	1	6
小6	2	15	17
中1	2	3	5
中2	2	8	10
中3	1	1	2
計	13	45	58



■ 講師概要

● サッカー：佐藤健太郎

- 三重県出身 元プロサッカー選手
- 順天堂大学卒業後、モンテディオ山形-ジェフユナイテッド市原・千葉-
- 京都サンガFC-レノファ山口
- 2022年に引退。通算Jリーグ試合出場438試合。現役時代のポジションはMF



● バドミントン：佐伯祐行

- 岡山県出身
- 元日本代表 元バドミントン選手
- 日本大学卒業後、日本ユニシス（現BIPROGYバドミントンチーム）に所属、ダブルスとして活躍。
- 主なタイトル、全日本大学選手権ダブルス優勝、2013年オーストリアチャレンジダブルス優勝、2013年東アジア選手権ダブルス銅メダル。



● リズムトレーニング：武藤克宏

- 大阪府出身
- 日本リズムトレーニング協会認定シニアインストラクター、認定リズムステップインストラクター



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

■ スポーツイベント開催に関する議論のポイント

● 市有施設活用について

- 社会体育施設にて収益事業を実施することについて美祢市と協議したところ、美祢市の条例に旧スポーツ振興法の影響はなく、問題ないとの認識であり実施に際しての条例面での障壁はなかった。その際に美祢市教育委員会と体育館等を所管する部署の連携が密に取れていたことで確認が円滑に進んだ。

● 当日運営ノウハウについて

- 企画、運営においてはUSF内に運営のマニュアル等が整備されており、MINEスポーツマネジメント事業共同体との連携も含めて、企画・運営において大きなトラブルは発生しなかった。運営面では、子どもを対象とするイベント特有の雰囲気づくりにおける工夫や知見を得ることができた。
- 当日の運営では、美祢市にフィールドワークとして滞在中の大学生もボランティアとして参加したが、イベントとしての盛り上げに大きな貢献があり、比較的若い年齢層のスタッフが運営にかかわることがイベントとしての全体的な効用を高めるうえで効果的であることが分かった。

● イベント参加者の募集について

- 参加者の募集として、USFのWebサイトでの募集、学校でのチラシ配布（4,000部以上）、市内有線放送等を活用したが、募集開始して当初の集客状況がそれほど芳しくなかった。小・中学校の校長や教員からは、コロナの影響もありイベントが開催されていないため、生徒自身のイベントに対する反応が悪くなっているため、こういった取り組みを継続して意識醸成していくことは必要との意見を頂いている。
- なお、改めて学校やヒアリングを実施した企業への訪問を重ねる、教育委員会の周知を行うことで結果として58名の応募につながった。



配布したチラシ

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

■ スポーツイベント当日の内容

- 当日は篠田美祢市長も参加し、ご挨拶を頂くとともにイベントの最中は参加者とともに体を動かした。
- 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの生徒がボランティアスタッフとして参加。初めて会うこどもたちがお互いに自己紹介や簡単なゲームなどを行い、開会式までのアイスブレイクを行った。
- 様々なスポーツを通じて体を動かすことの楽しさや、本物の技術等に触れる貴重な体験を提供することで、初めて目にするプロの技に興味を持ち積極的に取り組むこどもたちの様子が見られた。



リズムトレーニング

普段、授業や部活動などでは学べないリズムトレーニングを楽しく真剣に取り組む様子が伺えた。



サッカー

当初グラウンドで予定していたが、雨の影響で体育館で実施。限られたスペースの中でサッカーの基礎を学び、その後試合形式では、こどもたちが必死にボールを追う姿が伺えた。



バドミントン

ラケットの握り方から、使い方、打ち方など基本を丁寧に指導を受け、講師が上げてくるシャトルをこどもたちは楽しそうに打ち返す姿が伺えた。



集合写真

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

保護者アンケートの実施■ **保護者アンケート概要**

- アンケート方式：スポーツイベント参加の受付時に同伴で来た保護者へアンケート用紙を配布・回収
- 調査対象：保護者（58名）
- 回答期間：スポーツフェスティバル in 美祢実施当日
- 回答件数：回答30件（回答率51.7%）

■ **アンケート項目****1. お子さんについて**

- ✓ 回答される方と合同部活動に参加したお子さんとの関係
- ✓ 性別
- ✓ 学年

2. スポーツイベントについて

- ✓ 部活動以外の習い事や塾について
- ✓ （中学生の保護者のみ）所属する部活動
- ✓ イベントを観覧しての満足度
- ✓ 有料イベントとなった場合の参加検討、「参加しない」理由
- ✓ 許容できる参加費（1回あたり、1ヶ月あたり）
- ✓ 参加させたいと思えるスポーツイベント
- ✓ 体験させたいスポーツ、呼んでほしいアスリート
- ✓ 自由記述

3. 当日の交通手段について

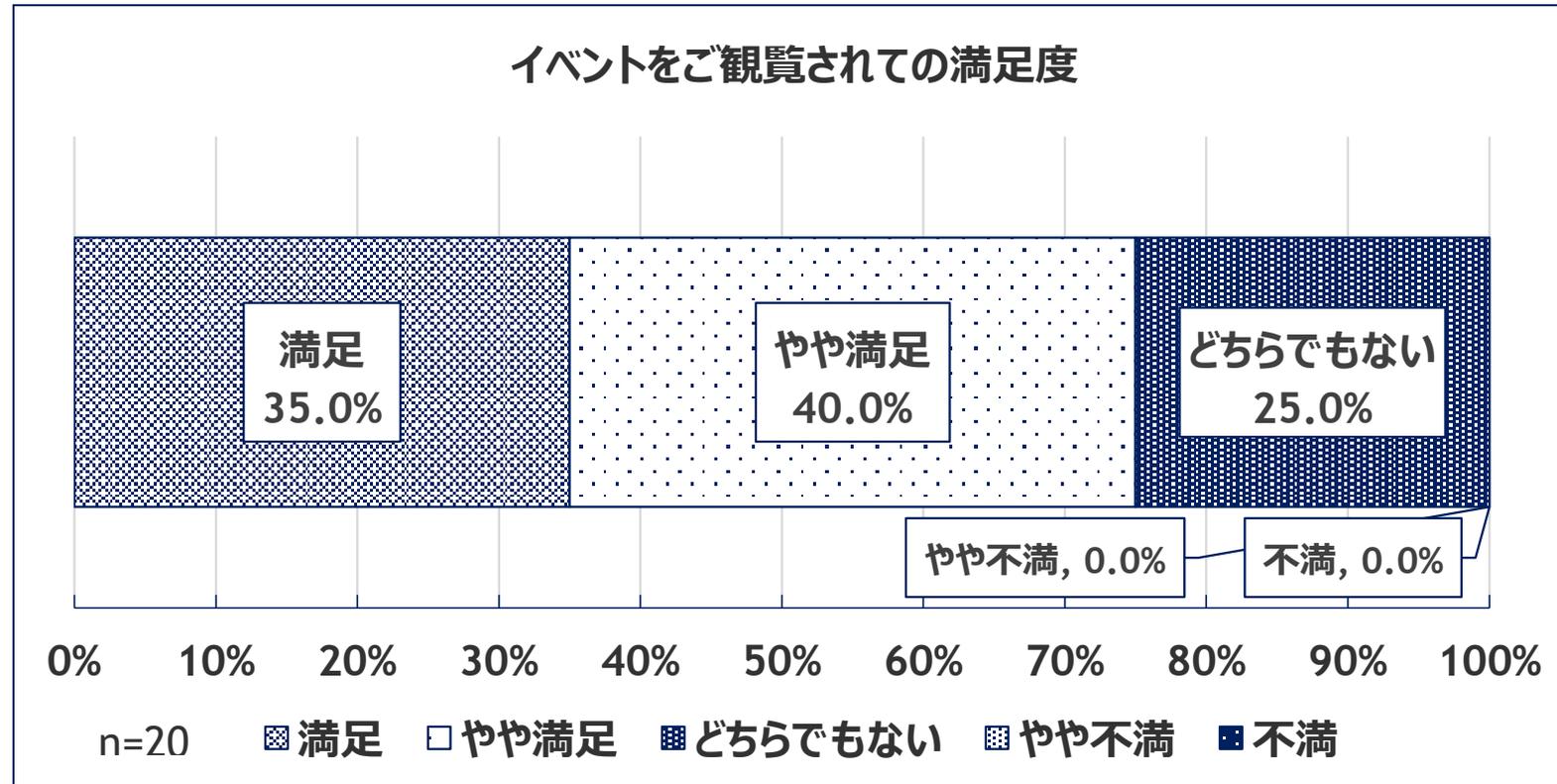
- ✓ 自宅から会場までの距離
- ✓ 当日の交通手段
- ✓ 移動の満足度
- ✓ 送迎への負担感、場面
- ✓ 許容できる料金
- ✓ スマホ・PCの利用状況

3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

■ アンケート結果（イベントの満足度）

- スポーツイベントに参加された児童・生徒の保護者のうち、観覧された方に満足度を聴取したところ、75%が満足（満足＋やや満足）の傾向にあり、不満傾向の回答はなかった。
- イベント運営に特段の不備はなく、継続的に開催を行うことを想定したときに、悪くない印象を与えることができたと受け止めている。

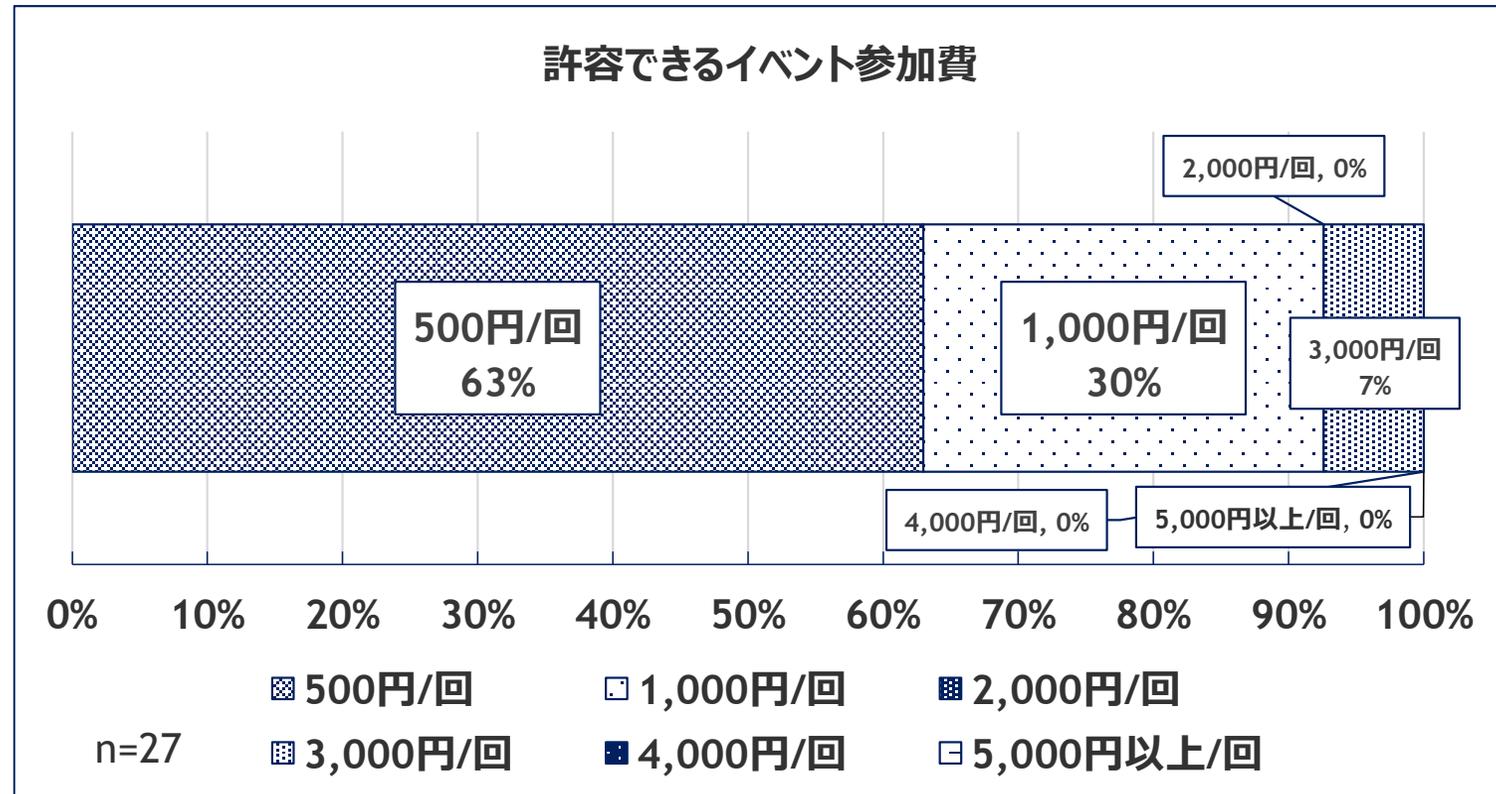


3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

■ アンケート結果（許容できる金額）

- 保護者に対して、児童・生徒のイベント参加に関し許容できる費用を聴取したところ、500円以下/回に近いとの回答が63%と最も多く、9割以上が1,000円以下/回と回答した。
- 同様のイベントの運営をすべて参加者負担とした場合、主催者の工数を除いたとしても損益分岐点は5,000円/人以上となるため、新たな収益源という観点からは再検討が必要である（「収穫と課題」にて詳述。）

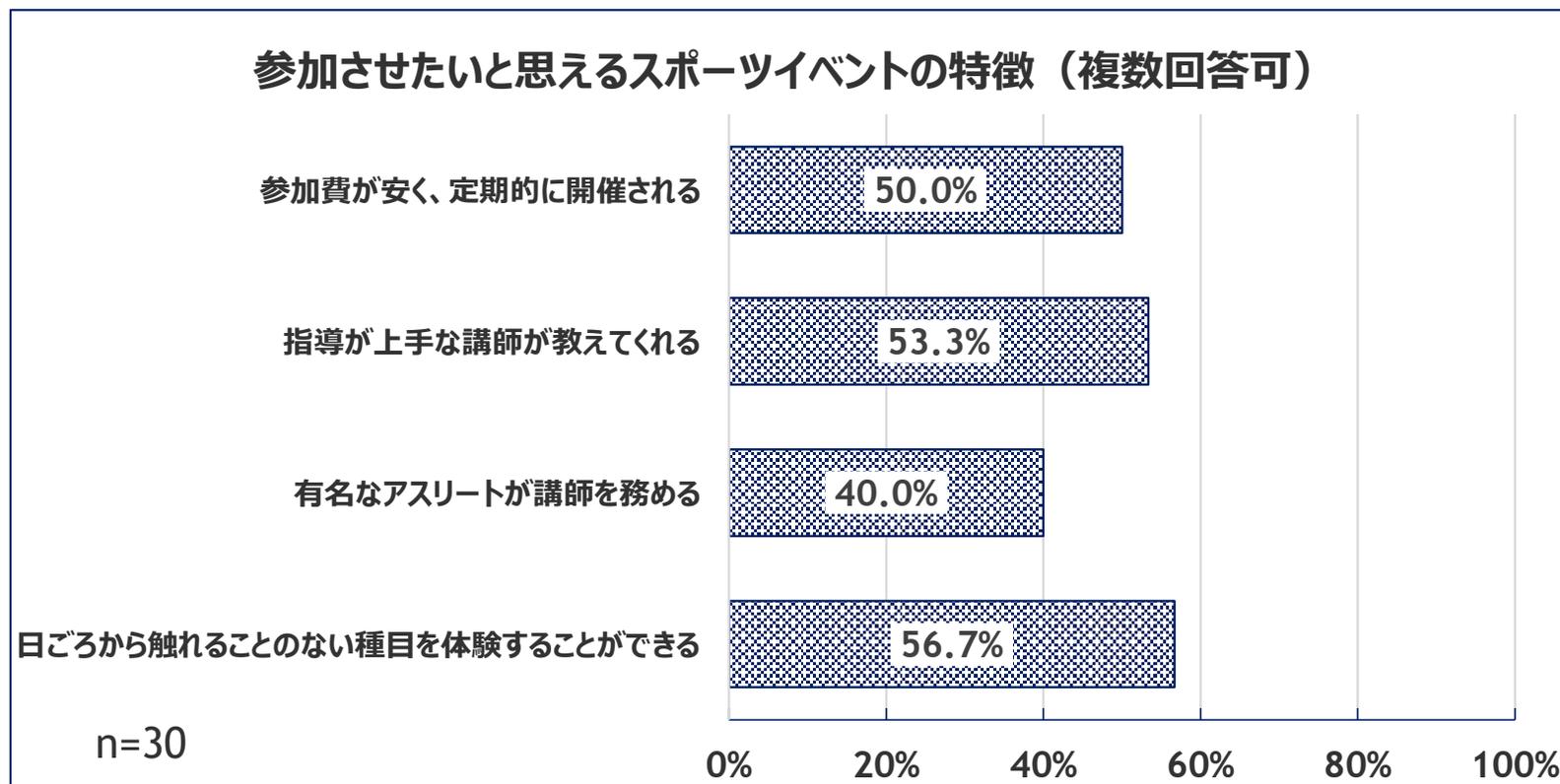


3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

■ アンケート結果（参加させたいスポーツイベント）

- 参加させたいと思えるイベントの特徴を保護者に聞いたところ、最も回答が多かった項目は、「日頃触れることがない種目」であり、次いで「指導の上手さ」であった。
- 「有名なアスリートであるか」については、他の項目と比較すると重視する割合が少なかった。



3. 実証内容とその成果

b.課題に対する取組結果 ③ 市有体育施設を活用したイベントの開催

■ スポーツイベントの実施を踏まえた収益の確保に関する考察

- イベントの満足度、要した経費と比較すると、保護者の支払許容金額は高いとは言えず、今回のイベントの採算は取れない状況にあり、新たな収益源の確保とはならなかった。
- 社会体育施設含む公有施設の有効活用は引き続き視野に入れるべきであるが、顧客層やイベント内容等は「できる」内容にとらわれない発想での検討が必要。

● 収益性について

- イベントに参加した保護者へのアンケート結果では、今回のようなイベント1回あたり500円～1,000円が支払許容金額であった。
- 経費について、最も今回の支払いで割合が大きかったものは、講師謝金・旅費だが、求められているスポーツイベントの傾向としては、講師の著名さは相対的な重要性は低く、経費として圧縮できる余地はある。
- 会場費は、今回の実証は市の共催ということで減免が適用されたが、仮に全額支払ったと仮定しても微細な金額。
- 上記の要素を勘案しても、同様のスポーツイベントという前提では、収支をゼロにすることが精いっぱいな状況。
- ノウハウの蓄積について、今回のように専門性の高い団体との連携から自立へ、という図式は転用できる可能性がある。
→**公有施設の有効活用というメリットは享受しつつも、対象属性、内容を今現在のアセットに縛られることなく需要ベースで検討し、様々なものを試行していくことが必要。**

3. 実証内容とその成果

c.実証から得られた示唆

1

1 移動手段の確保

- タクシー事業者の新しいビジネスマーケットとして捉えることができる。
- サービスを実装するにあたっての主要な改善点として、MaaSアプリの利便性向上と所要時間の短縮があげられる。
- 利用者の支払許容額のみで営利事業として成り立たないため、広告収入や行政からの補助等運賃以外の収益の確保が必要である。

2

2 指導者の確保

- 継続的な運営を見据えた場合、各種目に1～3名のコーチが加わる必要があるとあり、今後の指導者発掘の方向性として、顕在している指導者メンバーの交友関係をたどることが地道ではあるが最も有効な施策と考えられる。
- 受け皿団体や指導者の活動に関する詳細の明確化、その後の呼びかけが必要。
- 企業に対するアプローチは、協賛等の経済的な援助の方向で継続的な関係構築を図ることが望ましい。

3

3 収益の確保

- 受け皿団体の収益確保策について、稼働率の低い体育施設等の施設活用という方向性は継続して検討する対象となる。
- 実施するイベントの対象について、中高生はニーズが弱いとあり、小学生以下、高齢者などターゲットを変えた検討は行う意義がある。
- イベントの開催ノウハウについて、今回のように各分野における、経験豊富な団体との連携を皮切りに実施する方策は有効である。

3. 実証内容とその成果

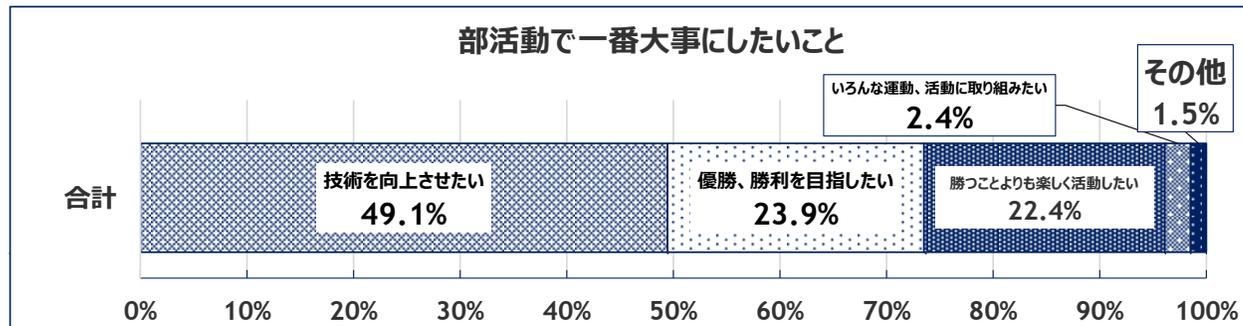
d.その他活動に関する報告 地域移行後の活動志向や頻度に関する議論に向けて

- 合同ブカツおよび送迎のアンケート実施時に、生徒と保護者の双方に、部活動全般に関する意向を問う設問を設けた。
- 選択肢が完全に一致していない設問もあるが、類似する問いに関する生徒、保護者それぞれの回答を基に比較、考察を行う。
- 望ましいブカツのあり方を考えるためには、生徒の意向も把握することが地域移行そのものが目的とならないために重要と考えられる。

■ アンケート結果（部活動で大事にしたいこと）

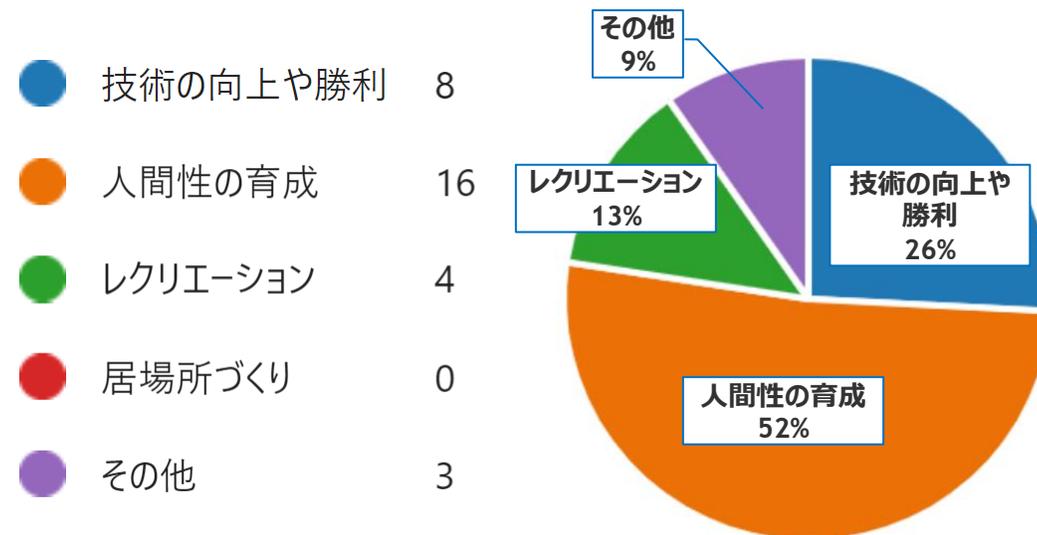
- 最も多かった回答は、生徒は「技術の向上」、保護者は「人間性の育成」となっている。
 - 練習直後に実施したことを要考慮だが、生徒は技術の向上を大事にする割合が大きい。
 - 保護者は、半数以上が最も大事にしたいものとして「人間性の育成」をあげた。

生徒の回答



n=67

保護者の回答



n=31

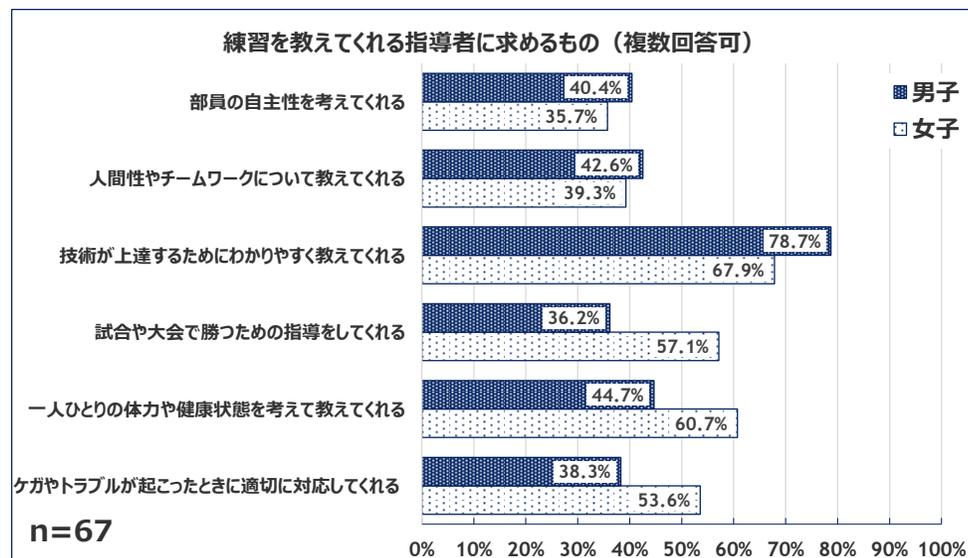
3. 実証内容とその成果

d.その他活動に関する報告 地域移行後の活動志向や頻度に関する議論に向けて

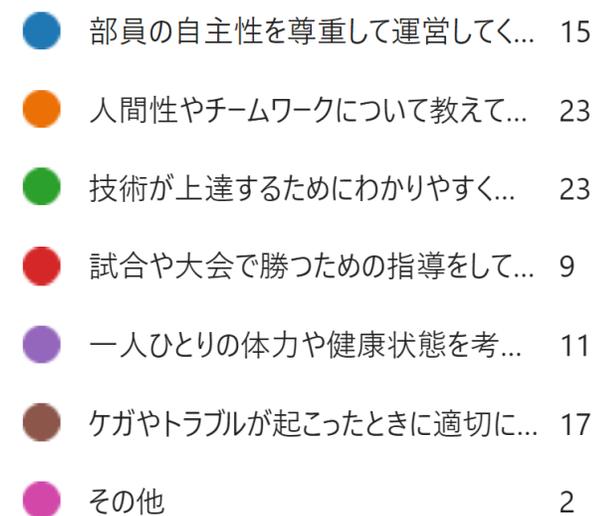
■ アンケート結果（指導者に求めるもの）

- 指導者に求めるものについて、最も多かった回答は、生徒、保護者ともに「技術指導の分かりやすさ」。
→技術指導に対する要望は強く、一定程度専門性を有した人が指導にあたる必要がある。
→学校教育における部活動で重視されている「自主性」については、生徒、保護者ともに重視している割合が低い。

生徒の回答



保護者の回答



n=31

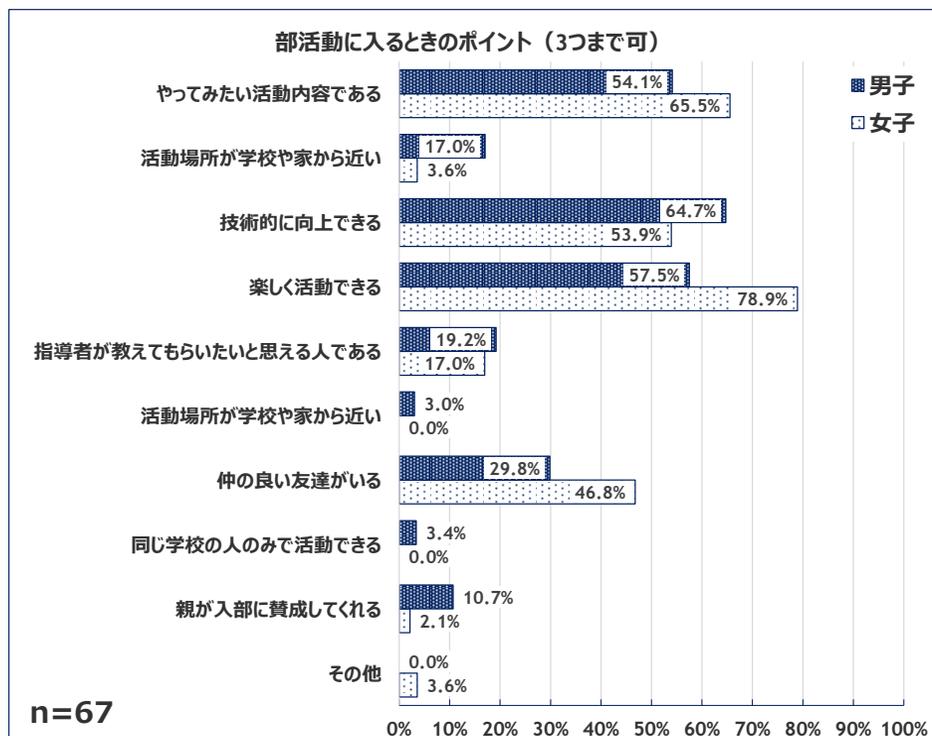
3. 実証内容とその成果

d.その他活動に関する報告 地域移行後の活動志向や頻度に関する議論に向けて

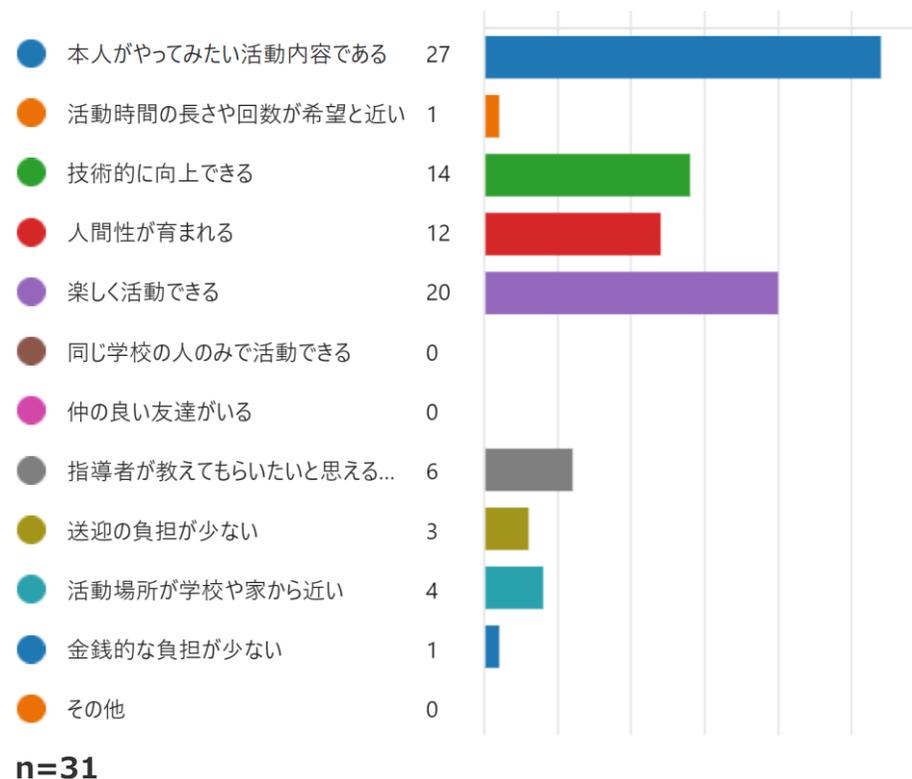
■ アンケート結果（部活動を選ぶポイント）

- 部活動に入る決め手について、最も多かった回答は生徒は「楽しく活動できること」、保護者は「やってみたい活動であること」であった。
→生徒、保護者ともに「活動内容の選択肢」、「楽しさ」が重視する要素の2つであり、生徒は次いで「技術の向上」、保護者は「人間性の育成」を重視している。

生徒の回答



保護者の回答



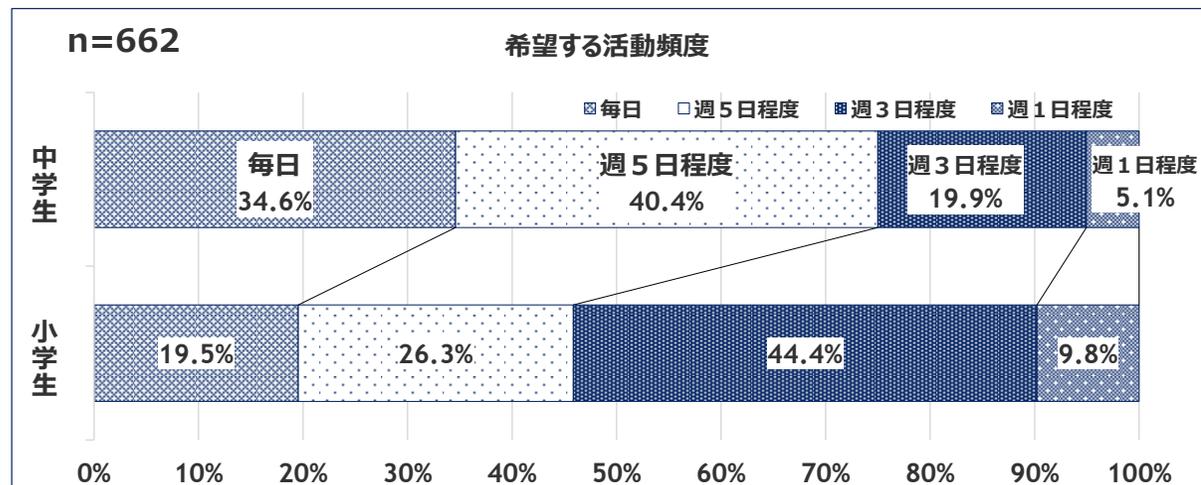
3. 実証内容とその成果

d.その他活動に関する報告 地域移行後の活動志向や頻度に関する議論に向けて

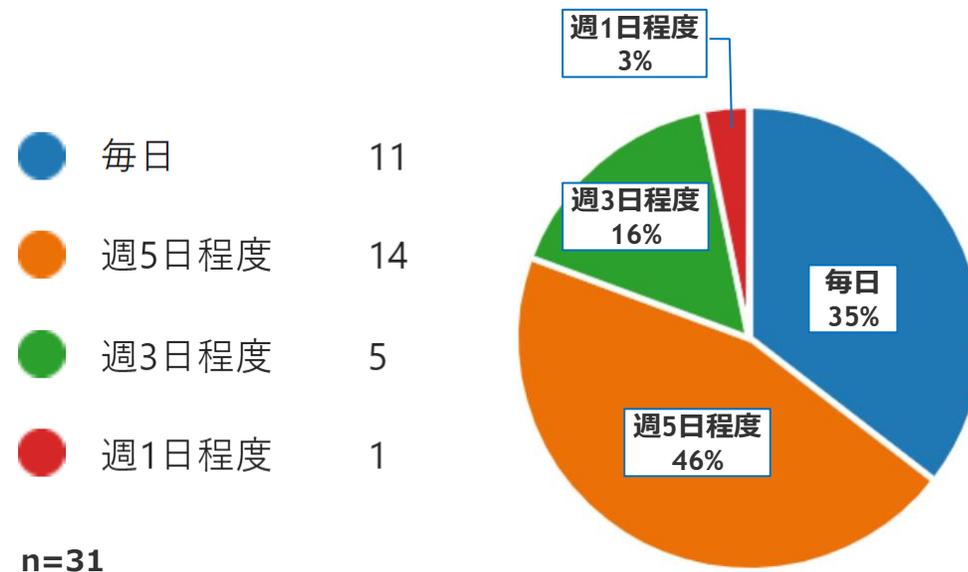
■ アンケート結果（希望する活動頻度）

- 希望する活動頻度について、中学生とその保護者の8割程度は週5日以上の活動を希望している。小学生は、「週3日程度」の回答が最も多くなっている。
→現状の部活動のガイドライン上も、週5日以上の活動はしないことが求められているが、それ以上の活動を希望する層が一定数いる。

生徒の回答



保護者の回答



3. 実証内容とその成果

d.その他活動に関する報告 地域移行後の活動志向や頻度に関する議論に向けて

■ 実証事業およびアンケート結果を踏まえた地域移行後のブカツの姿に関する考察

- 今回の実証を踏まえて、地域移行後の姿としては、下記のような形式とすることが示唆される。

● 活動方針について

- (生徒、保護者アンケート結果より) 生徒間、生徒と保護者の間で、そもそも部活動に何を求めているかは異なる。**保護者は人間的成長を求めているが、9割以上が希望する活動日数を週5日以上と回答している。**人間的成長の活動を重視したときに、週5日の活動は必ずしも行う必要がなく、**居場所づくりとしての要素も求められていることが推測できる。**
→**活動方針について、生徒を含む関係者が一堂に会して議論をする場**を設けることで整理ができるのではないか。

● 費用について

- (指導者ヒアリングより) 現在指導にあたっている方々の大半は**使命感が原動力となっていて持続可能ではない状況。**
→**良質な指導者が指導にあたるためには、一定の謝金の支払いが不可欠**と推測できる。
- (企業ヒアリングより) 地域企業の中には、こどもたちのスポーツ・文化活動の機会を提供するために、様々な支援を行う用意がある企業も存在する。
→企業からの支援も含め、様々な支援の窓口の用意と周知を行うことで、経済的な支援が得られるのではないか。

● チームの単位について

- (生徒アンケート結果より) 生徒、保護者ともに、**最も優先度が高いことは、やりたい活動内容の選択肢が通っている学校に関係なく揃っていること**であり、このことから、学校単位から**地域単位での活動へ早期に移行することが求められている。**
- (アンケート結果より) **学校の枠を超えた練習の満足度は高く、活動の幅が広がることを歓迎する声も多かったこと**から、生徒の立場からは抵抗要素は多くないことが読み取れる。

● 練習の回数・日時・形式について

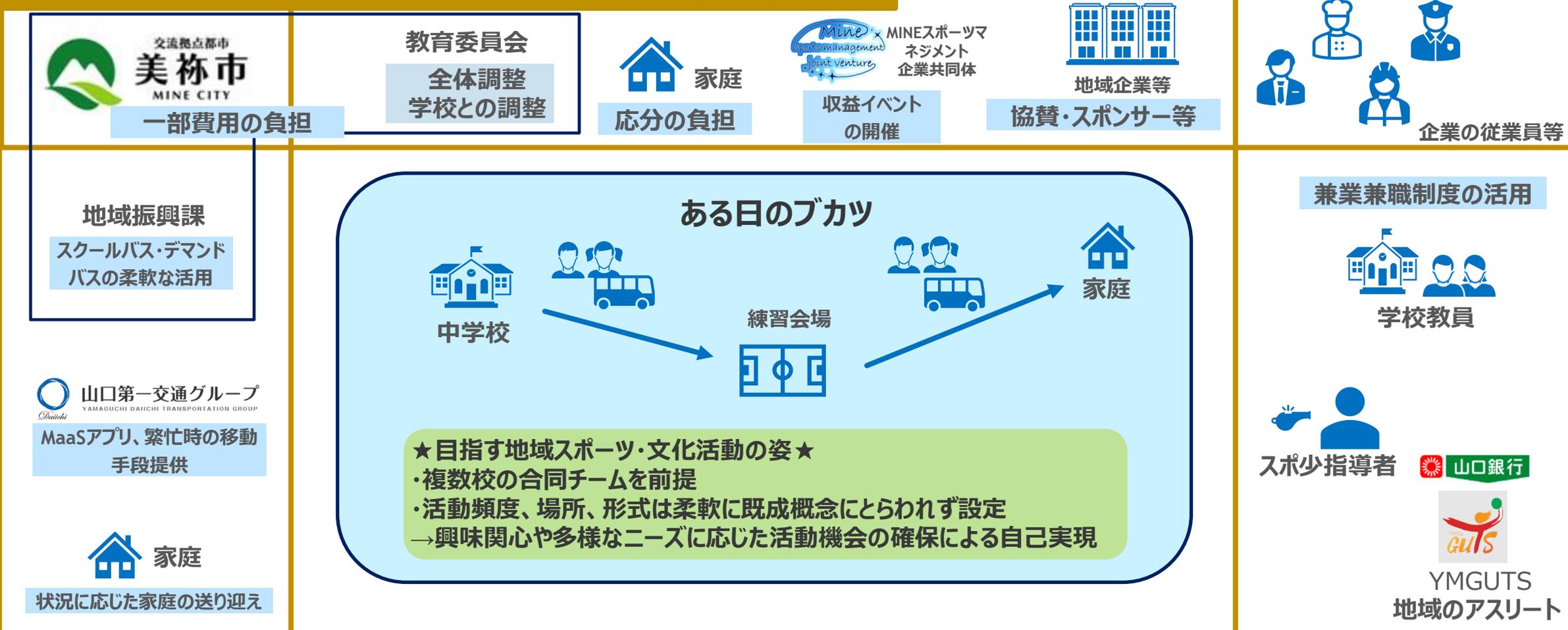
- (指導者・企業ヒアリング、保護者アンケート結果より) 現状のような、週5日・従来の時間帯での活動は、指導者の確保、移動のコストを踏まえると実現可能性が低い。
- 指導者のスケジュールに合わせれば、**平日の時間帯の繰り下げや休日中心の活動も考慮の余地**がある。また、**シニア世代の方々**と協力することで、指導時間をカバーしあうことも必要。
- 合同チームとしての活動と両立する手段として、平日は基本的に各校で、休日は合同などの**メリハリのついた開催形式等**を取り入れることを検討する余地がある。

4. 今後の目指す姿

4. 今後の目指す姿

a. 本実証を踏まえた目指す姿

収益の確保 → 企業の協賛、収益イベントの模索、受益者負担、公費負担等様々な選択肢を追い求める



移動手段の確保

→ スクールバス利用も含め、MaaSを活用した効率的な運用を行う

指導者の確保

→ 「有資格者が有償で」を前提に幅広い人材の参画を目指す

4. 今後の目指す姿

b. 目指す姿に向かたロードマップ

2023年度

- ✓ **休日**の部活動について、
可能な学校、可能な種目から地域移行を開始
- **移行に向けた全般的な事項**
 - ・ 市内学校運営方針の見直し
 - ・ 受け皿となる事務局の検討
 - ・ 地域移行に係る保護者への説明
- **収益の確保**
 - ・ 運営費の検討
 - ・ 地域企業からの協賛の検討
- **指導者の確保**
 - ・ 地域活動の指導の意向がある団体との協議
 - ・ 公民館活動への受け入れに関する協議
- **移動手段の確保**
 - ・ スクールバスの柔軟な運用に関する検討

2024年度

- ✓ **休日**の部活動について、
すべての学校、すべての種目で地域移行を完了
- ✓ **平日**の部活動について、
可能な学校、可能な種目から地域移行を開始
- **移行に向けた全般的な事項**
 - ・ 活動方針、受け皿となる事務局、家庭負担額の決定、各ステークホルダーへの説明
- **収益の確保**
 - ・ 地域企業からの協賛受入開始
- **指導者の確保**
 - ・ 活動の受け皿拡大
- **移動手段の確保**
 - ・ スクールバス、公共交通を含めた部活動向けの運用開始

2025年度

- ✓ **すべての部活動**について、
すべての学校、すべての種目で
地域移行を完了

4. 今後の目指す姿

c. 事業収支計画

- 本実証で実施した移動手段の提供も踏まえた収支計画について、特に費用の運賃計上については、道路運送法第9条において「適正な原価に適正な利潤をくわえたものを超えないもの」と定められており、運賃の引き下げは国土交通大臣の認可等の規制がある状況。部活動の地域移行に際しての利用については公共性の高い事業となることから、市からの補助や法改正も含めた運賃の見直しの検討を行うことも、採算性改善の一つの手法と考えられる。

費用 (合計77,532,000円)		売上 (合計34,425,000円)	
● 指導者報酬 : 18,240千円 計算式 : ①指導者単価 × ②活動時間/年 × ③指導者数 1,201円/時間 × 337.5時間/年 × 45人 = 18,240,188円	¥18,240,000	● 月謝 : 16,200千円 計算式 : ①月額 × ②月数 × ③生徒数 3,000円 × 12月 × 450人 =16,200,000円	¥16,200,000
● 指導者交通費 : 4,495千円 計算式 : ①交通費単価 × ②移動距離 × ③指導者数 37円/km × 2,700km/年 × 45人 = 4,495,500円	¥4,495,000	● 生徒交通費 : 18,225千円 計算式 : ①運賃 (片道) × ②稼働台数/回 × ③送迎回数/年 500円/回 × 270回/年 × 135人 = 18,225,000円	¥18,225,000
● 指導者保険料 : 49千円 計算式 : 掛金/年 × 指導者数 運動部分 + 文化部分 1,200円/年 × 33人 + 800円/年 × 12人 = 49,200円	¥49,000		
● 指導者講習料 : 1,413千円 計算式 : 講習費 × 指導者数 31,400円 × 45人 = 1,413,000円	¥1,413,000		
● 生徒交通費 : 53,335千円 計算式 : ①運賃 (片道) × ②稼働台数/回 × ③送迎回数/年 5,810円/台 × 34台/回 × 270回/年 = 53,335,800円	¥53,335,000		

他の収入源の模索が必要
43,107,000円/年